

第4期

にかほ市地域福祉活動計画

～みんなが主役 みんなでつくる福祉のまち「にかほ」～

令和5年度 ～ 令和9年度



社会福祉法人 **にかほ市社会福祉協議会**



ごあいさつ

社会福祉法人
にかほ市社会福祉協議会
会長 佐藤 耕一

私共、社会福祉協議会では5年ごとに「地域福祉活動計画」を策定しています。今回は令和5年から9年までの5か年を意図した内容になっています。

実はにかほ市では、一足早く去年の3月に「にかほ市地域福祉計画」を策定しています。その基本理念は「快適に暮らせるまち・子育てしやすいまち・高齢者が元気なまち」を謳っています。そこで私共社協の「地域福祉活動計画」も市の方針を念頭に、さらには過去5年間の反省材料にも触れながら策定いたしました。

ご承知の通り、私たちを取り巻く生活環境は“急激な少子高齢化”にはじまり、“核家族化”“単身世帯の増加”などにより、住民同士の繋がりが希薄化し、孤独世帯への目配せがややもすれば届きにくい状況といっても過言ではありません。加えて、3年前からの“新型コロナウイルス感染”拡大は日常生活の上で心身共に大幅な制約を受けることになりました。ワクチン接種も国民全体に浸透しているとは言うものの第9波が来ないとも限りません。国では“ウイズコロナ”政策に舵を切ったようですが、この様な時こそ静かに周囲の状況を見極め、立ち位置を見失わないことが大事かと考えます。

私共、社会福祉協議会では介護事業を柱に自主財源の確保に努め、一方ではにかほ市からの事業を委託しながら住民参加と協働による福祉活動や一般相談事業・日常生活自立支援事業・高齢者等声かけ見守り巡回事業など幅広く展開していきます。

つきましては、市民の皆様には今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、この計画策定に当たり熱心にご議論下さり貴重なご意見、ご提言を賜りました策定委員の皆様にご心から感謝申し上げます。今後とも変わらぬご指導とご協力をお願い申し上げます。



計 画 策 定 を 終 え て

第4期にかほ市地域福祉活動計画策定委員会
委員長 三 島 清

にかほ市をとりまく環境は、少子高齢化や核家族化の進行による少人数世帯の増加により日常生活においても多くの課題をかかえております。

自助、共助、公助とよく言われますが地域、町内の絆が3年に及ぶコロナ禍でますます弱くなって来ていると感じております。

公助だけですべての住民を支えるには、限界がありますので町内を単位とする地域の役割を見直し、市役所、社協、関係団体と一緒に活動を広げていくようにしなければならないと思います。

地域福祉活動計画は、市の地域福祉計画に掲げられた基本方針の実現に向けて市民や地域で活動する機関が地域福祉活動を進めるために策定する計画であり、地域福祉計画と地域福祉活動計画は、にかほ市における地域福祉推進のための大きな柱であり、共に連携しながら推進するものであります。

本計画がにかほ市の地域福祉の推進に寄与し、市民生活に多くの成果が得られると思います。

最後に計画策定委員の皆様には衷心よりお礼申し上げます。

目 次

第1章 計画策定にあたって

1	計画策定の背景	6
2	計画策定の目的と基本理念	6
3	計画策定の体制	7
4	計画の期間	7
5	行政計画との関係	7

第2章 地域福祉の現状

1	にかほ市の現状	10
2	住民アンケート事業から見えてきた課題	14

第3章 基本理念と基本目標

1	基本理念	34
2	基本目標と実施項目（体系図）	36

第4章 実施計画（具体的な展開）

1	事業内容と現状及び方向性	
	基本目標（1）関連事業	40
	基本目標（2）関連事業	50
	基本目標（3）関連事業	58
	基本目標（4）関連事業	66
	基本目標（5）関連事業	71

資料編

	にかほ市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱	80
	第4期にかほ市地域福祉活動計画の策定経過	82
	第4期にかほ市地域福祉活動計画策定委員会名簿	83

第 1 章

計画策定にあたって



第 1 章

計画策定にあたって

1 計画策定の背景

にかほ市社会福祉協議会（以下「本会」）では、平成 30 年 3 月に“みんな
で助けあい安心して暮らせるまち「にかほ」”を基本理念とした「第 3 期に
かほ市地域福祉活動計画」（以下「第 3 期計画」）を策定し、地域住民や関
係機関、行政等と連携・協働のもとで地域福祉の推進に努めてきました。

近年、社会情勢の変化や人口減少、少子高齢化が急速に進み、かつての
家族や地域による相互扶助機能や地域住民による社会的なつながりも弱体
化・希薄化しており、地域社会も大きく変容しています。更に今般の新型
コロナウイルスの感染拡大により、人とのつながりや居場所の喪失による
孤立も懸念されます。

一方でこれまでの制度や分野では対象になりにくかった援助が必要な人
たちや生活課題を抱えている人たち、社会的孤立や貧困、ひきこもりなど新
たな福祉的な課題への対応も必要とされています。複雑・複合的な課題を抱
えている世帯も多く、地域福祉に対するニーズも多様化しています。

住み慣れた地域や家庭で人や社会との関わりを持ちながら安心して暮ら
し続けていく上で、公的な福祉制度やサービスの充実に加え、地域住民が主
体的に参画し、分野を超えた多様な社会資源とつながりながら包括的・総合
的に地域福祉を推進していくことが求められています。

2 計画策定の目的と基本理念

社会福祉協議会は「社会福祉法^{※1}第109条」に記されているとおり、「地
域福祉の推進を図ることを目的とする団体」であり、地域福祉を目的とす
る事業の企画及び実施、地域福祉に関する活動への住民の参加のための援
助など、地域福祉を推進する中心的役割を担うことが期待されている団体
です。

だれもが住み慣れた地域で生き生きと暮らせる地域づくりを目指し、本会
の事業や地域福祉に関する活動への援助を通じて、地域住民や地域に関わる
組織・団体、行政などとお互いに協力・連携しながら、地域福祉を推進す
ることが必要とされています。

用語解説

※1 社会福祉法

社会福祉サービスの基礎をなす法律。昭和 26 年に制定された社会福祉事業法が社会福祉基礎構
造改革において大幅な改正が行われ、平成 12 年 6 月から社会福祉法として施行されている。社
会福祉の目的や理念、原則などを盛り込み、社会福祉事業の範囲や福祉事務所、社会福祉主事、
社会福祉法人や社会福祉協議会など社会福祉の構造改革に関する規定が定められている。

本会では『「安心して暮らせる福祉のまちづくり」に自覚と誇りをもって行動しよう』を基本理念として掲げ、地域福祉の更なる推進を図ることを目的に「第4期にかほ市地域福祉活動計画」（以下「本計画」という）を策定します。

3 計画策定の体制

本計画について広範的・専門的に検討していくために、地域住民、学識経験者、福祉関係団体やボランティア団体の役員、本会の役員、関係行政機関の職員を委員、参与とする「第4期にかほ市地域福祉活動計画策定委員会」を設置し、委員の意見や提案を計画に反映させました。

4 計画の期間

本計画の期間は、令和5年度から令和9年度（2023年度から2027年度）までの5年間とします。ただし、社会情勢の変動や社会福祉の動向などを踏まえ、行政の地域福祉計画※2との整合性を図りながら、必要に応じて組織や事業など見直し等を行い、柔軟に対応していきます。

5 行政計画との関係

にかほ市では、市の基本構想である「にかほ市総合発展計画」を上位計画とし、令和4年3月に「第4期にかほ市地域福祉計画」を策定しました。「地域福祉計画」は地域福祉を推進する上で基盤となる仕組みや施策体系をつくるための行政計画です。一方「地域福祉活動計画」は「地域福祉計画」の基本的な考え方を受けて、社会福祉協議会が呼び掛けて地域住民や福祉関係団体等と連携・協働し、地域福祉活動を進めるために策定する民間の行動計画です。地域福祉活動計画と地域福祉計画は行政と民間で役割を分担しながら、一体的に推進していくことが重要となります。

用語解説

※2 地域福祉計画

地域の福祉課題に目的志向をもち、合理的に対応するための一連の活動、その手法、あるいはその内容を明文化したもの。歴史的には社会福祉協議会による組織化活動中心の計画が先行したが、1990年代以降、市町村自治体による在宅福祉サービス整備等を旨とする「地域福祉計画」も作成されており、両者を区別するため、社会福祉協議会の計画を「地域福祉活動計画」と称している。

第 2 章

地域福祉の現状



第2章

地域福祉の現状

1 にかほ市の現状

(1)人口と世帯の状況

①総人口と世帯数の推移

にかほ市は平成17年10月に合併し誕生した市ですが、人口の推移を見ると年々減少傾向にあります。平成18年3月末の人口が29,351人でしたが、令和3年3月末では23,664人まで減少しています。

一方、世帯数では令和3年では9,335世帯で平成18年と比較して8世帯増となっています。また1世帯当たりの世帯人員は3.15人から2.53人に減少しており、核家族化や世帯員の少人数化が進んでいます。

	平成18年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年
総人口(人)	29,351	25,385	24,983	24,533	24,152	23,664
世帯数(世帯)	9,327	9,391	9,395	9,377	9,378	9,335
世帯人員(人)	3.15	2.70	2.66	2.62	2.58	2.53

(参考資料：第4期にかほ市地域福祉計画／各年3月31日現在住民基本台帳)

②年齢3区分人口構成比の推移

年齢3区分別の人口比の推移では、年少人口(0歳～14歳)と生産年齢人口(15歳～64歳)が大幅に減少しています。高齢者人口(65歳以上)が増加し高齢化率(総人口に占める高齢者人口の割合)も年々上昇していることから、少子高齢化が進んでいることが分かります。

		平成18年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年
世代別 上段(人) 下段(%)	年少人口 (0歳～14歳)	3,795 12.9	2,706 10.7	2,579 10.3	2,425 9.9	2,323 9.6	2,215 9.4
	生産年齢人口 (15歳～64歳)	17,752 60.5	13,785 54.3	13,418 53.7	13,019 53.1	12,681 52.5	12,273 51.8
	高齢者人口 (65歳以上)	7,804 26.6	8,894 35.0	8,986 36.0	9,089 37.0	9,148 37.9	9,176 38.8
総人口(人)		29,351	25,385	24,983	24,533	24,152	23,664

(参考資料：第4期にかほ市地域福祉計画／各年3月31日現在住民基本台帳)

(2)高齢者の状況

①高齢者世帯数の推移

にかほ市全体の世帯数は、近年横ばい状況にありますが、高齢者のみの世帯は大幅に増加しています。令和3年では高齢者のみの世帯が2,871世帯となり、全世帯に占める割合も30.6%になっています。

また、一人暮らしの高齢者世帯は令和3年には1,512世帯にのぼり、増加傾向にあります。

	平成18年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年
世帯数	9,356	9,414	9,413	9,372	9,378	9,391
高齢者のみ世帯						
上段(世帯数)	1,623	2,502	2,612	2,679	2,783	2,871
下段(割合)	17.3	26.6	27.7	28.6	29.7	30.6
うち一人暮らし 高齢者世帯	815	1,296	1,375	1,396	1,452	1,512

(参考資料：第4期にかほ市地域福祉計画／各年7月1日現在 高齢者数・高齢者世帯調査票)

②要支援・要介護認定者の推移

要支援・要介護認定者数は、令和3年で1,735人と平成18年より545人の増となっています。

高齢者人口は年々増加しており、いわゆる団塊の世代が75歳に達する令和5年には、にかほ市の高齢化率は40%に達すると推測されています。

高齢者人口の増加に比例して、要支援・要介護認定者も増加していますが、近年は要支援・要介護認定者、介護認定率も横ばい傾向で推移しています。

	平成18年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年
要支援者	167	276	272	260	259	266
要支援1	94	104	102	84	66	82
要支援2	73	172	170	176	193	184
要介護者	1,023	1,411	1,432	1,443	1,440	1,469
要介護1	267	233	258	234	251	264
要介護2	191	253	333	381	382	408
要介護3	191	310	316	304	284	293
要介護4	179	269	293	297	307	300
要介護5	195	246	232	227	216	204
合計	1,190	1,687	1,704	1,703	1,699	1,735
介護認定率(%)	15.2	19.0	19.0	18.7	18.6	18.9

(参考資料：第4期にかほ市地域福祉計画／各年3月31日現在 由利本荘広域市町村圏組合調べ)

(3)児童の状況

①出生数の推移

出生者数は平成18年には201人でしたが、未婚化や晩婚化の影響等により減少傾向にあり、令和2年には平成18年の半分以下の85人となっています。

	平成18年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
出生数	201	147	108	112	104	85
第1子	104	66	48	51	38	22
第2子	68	53	46	44	41	45
第3子	25	25	13	13	18	13
第4子	4	3	1	4	7	5

(参考資料：第4期にかほ市地域福祉計画／にかほ市事務報告書)

(4)障がい者の状況

①障害者手帳等所持者の推移

障害者手帳等所持者をみると、令和3年では全体で1,495人、手帳所持率6.3%となっています。

障害者手帳等の種類別では、身体障害者手帳の所持者が一番多くなっています。身体障がい別内訳では、多い順から肢体不自由、内部障がい、聴覚障がいと続いています。

傾向として、身体障害者手帳、療育手帳の所持者はほぼ横ばいで推移していますが、精神障害者保健福祉手帳の所持者は増加傾向にあり、平成18年と比べると、約3倍になっています。

	平成18年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年
身体障害者手帳	1,166	1,153	1,154	1,154	1,132	1,121
療育手帳	178	197	203	208	212	209
精神障害者 保健福祉手帳	56	124	130	133	142	165
合計	1,400	1,474	1,487	1,495	1,486	1,495
手帳所持率(%)	4.8	5.8	6.0	6.1	6.2	6.3

(参考資料：第4期にかほ市地域福祉計画／各年3月31日現在 障害者基礎調査)

本計画の表記について

「障がい」または「障害」の表記については、法令、例規等の名称及び条文の引用による記載や、それらに規定される制度、事業等の名称や固有名詞を除き、「障がい」と表記します。

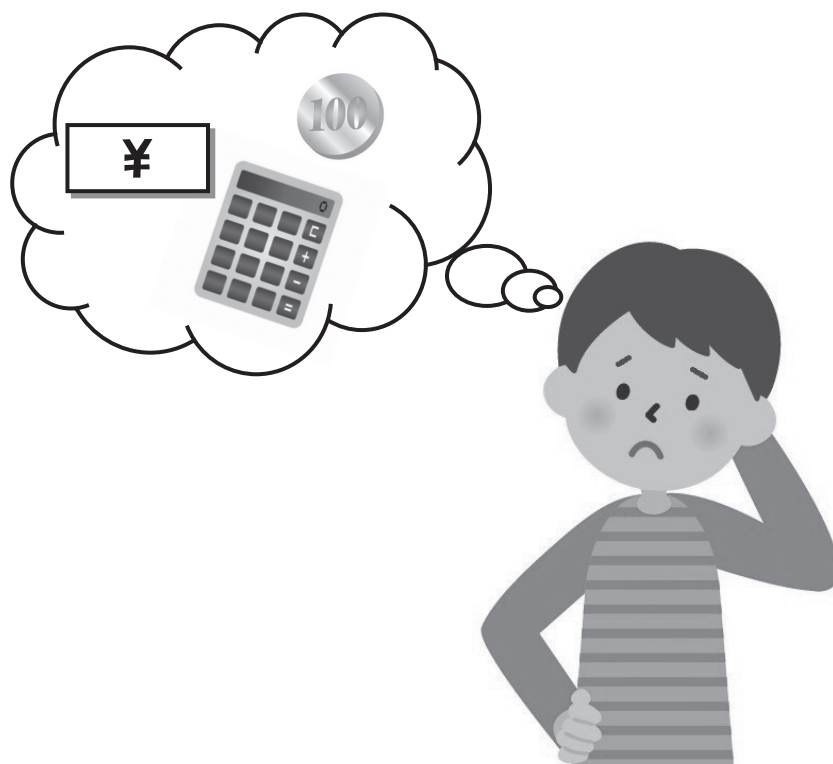
(5)生活保護の状況

①生活保護世帯・人員の推移

生活保護世帯及び保護人員は近年減少傾向にあり保護率（人口1,000人当たりの被保護人員の比率）では全国平均、秋田県平均を下回り、県内でも低い水準で推移しています。

項 目		平成18年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年
保護世帯(世帯)		113	123	112	112	110	100
保護人員(人)		157	172	141	140	137	124
保護率(‰)	にかほ市	5.3	6.8	5.6	5.7	5.7	5.2
	秋 田 県	11.0	14.6	14.4	14.5	14.4	14.1
	全 国	11.8	16.9	16.7	16.6	16.4	16.4

(参考資料：第4期にかほ市地域福祉計画／各年3月31日現在 福祉行政報告例)
保護率については、全人口に占める被保護人員の割合を1,000分の1の比率単位(パーミリア「‰」)で表記。



2 住民アンケート事業から見えてきた課題

(1) 調査方法等

① 調査対象

調査期間中にかほ市内に在住する市民（20歳以上から80歳代まで／500名）とし、無作為抽出とする。

② 調査時期 令和4年8月1日～31日

③ 調査方法 配布・回収とも郵送で実施

④ 調査票回収数 253人（回収率50.6%）※前回調査（H28）比 △24人（△4.8%）

(2) 主な調査結果

① 回答者自身について

1) 性別

項目	回答数 (人)	割合 (%)
男性	113	44.7
女性	139	54.9
無回答	1	0.4
計	253	100.0

2) 年齢層

項目	回答数 (人)	割合 (%)
20歳代	12	4.7
30歳代	10	4.0
40歳代	37	14.6
50歳代	52	20.6
60歳代	57	22.5
70歳代	48	19.0
80歳代	37	14.6
計	253	100.0

3) 職業

項目	回答数 (人)	割合 (%)
会社員	71	28.0
公務員・団体職員	13	5.1
自営業	24	9.5
農林漁業	13	5.1
パート・ アルバイト	29	11.5
学生	1	0.4
無職	93	36.8
その他	7	2.8
無回答	2	0.8
計	253	100.0

4) 家族構成

項目	回答数 (人)	割合 (%)
単身	31	12.2
夫婦のみ	61	24.1
夫婦と子または 夫婦と親（二世帯）	84	33.2
母と子、または父と子	25	9.9
親・子・孫（三世帯）	40	15.8
その他	8	3.2
無回答	4	1.6
計	253	100.0

②地域との関わりについて

1)地域(近所)との付き合いの程度について

項目	回答数 (人)	割合 (%)	前回比 (%)
仲が良くお互いの家を行き来する	28	11.1	△3.0
会えば立ち話をする	73	28.8	+0.3
顔を合わせればあいさつをする	137	54.1	+1.1
顔は知っているが声をかけることはない	4	1.6	△0.2
ほとんど顔も知らない	7	2.8	+1.3
その他	0	0.0	±0.0
無回答	4	1.6	+0.5
計	253	100.0	±0.0

前回調査（平成 28 年実施）と比較しても大きな違いは見られず、9割以上の方が地域（近所）の人と「あいさつをする」以上の付き合いがあると回答しています。また、男性よりも女性の方が、年齢別では 50 歳代未満よりも 60 歳代以上の方々が地域（近所）との付き合いや関わりが深い傾向にあります。

昨年度、市で行ったアンケート調査（回収数 1,017 人、以下「市アンケート」）で「問 18 地域の人との関わり」を問う設問では、「隣近所の人との付き合いを大切にしたい」という回答を選んだ方が最も多く 562 人（55.3%）、続いて「地域を良くする活動を協力し合っていない」が 194 人（19.1%）と、近隣や地域とのつながりや関わりが大切だと思っている方が多いことが分かりました。

2)地域活動への参加状況について

項目	回答数 (人)	割合 (%)	前回比 (%)
参加している	157	62.0	△9.1
参加していない	93	36.8	+9.0
無回答	3	1.2	+0.1
計	253	100.0	±0.0

約 6 割の方が何らかの地域の活動に参加していますが、前回調査より 9.1%減少しています。

「参加している地域活動」の内容（複数回答）として、

- ・「一斉清掃」・・・ 127 人
- ・「祭り」・・・ 68 人
- ・「防災・防犯活動」・・・ 35 人

が上位を占めており、前回調査と同様の結果となりました。

参加していない方の主な理由（複数回答）として、

- ・「仕事をもっているので時間がない」・・・46人
- ・「健康や体力に自信がない」・・・・・・・・・・29人
- ・「興味のもてる活動がない」・・・・・・・・・・16人

といった回答が多く、前回調査と同じような結果になりました。

稼働年齢層（60歳代未満）の方々では仕事を、70歳代以上の方々では体力的な理由に挙げた方が多くなっています。

市アンケートでも、「問17 地域（自治会）行事への参加」について「全く参加していない」と答えた方が221人（21.7%）となっており、本会のアンケート調査より割合は低くなっていますが、地域の行事に参加していない方が一定数いるものと思われます。

3)地域活動への参加依頼があった場合の対応について

項目	回答数 (人)	割合 (%)	前回比 (%)
積極的に参加したい	17	6.6	△4.0
内容によっては参加したい	144	56.9	△4.5
当番制ならする	22	8.7	+1.8
おそらく断る	31	12.3	+2.9
わからない	26	10.3	+1.6
その他	7	2.8	+2.0
無回答	6	2.4	+0.2
計	253	100.0	±0.0

「内容によっては参加したい」が144人（56.9%）と最も多い回答数になっていますが、前回調査より4.5%減少しています。「積極的に参加したい」17人（6.7%）も前回調査より4.0%低くなっています。



4)地域活動をする上で必要と思われる条件(3 つまで選択可)

〈回答者数 253 人〉

項 目	回答数 (人)	割合 (%)	前回比 (%)
時間的な余裕	162	64.0	△1.7
活動を行うための自分自身の健康	148	58.5	+9.8
活動を行うことによる生きがいや充実感	91	36.0	+0.6
知人や友人からの誘い	54	21.3	△1.4
経済的な余裕	40	15.8	△2.2
自身の趣味などが生かされる場面	35	13.8	△5.3
ボランティア団体や活動内容などの情報	29	11.5	+2.1
家族の理解	26	10.3	△1.6
ボランティアを必要としている施設などの情報	20	7.9	+1.4
活動中の事故などへの保障	18	7.1	+1.7
ボランティアについての学習の場	10	4.0	△0.7
その他	3	1.2	+0.1
無回答	7	2.8	△0.5

前回の調査結果と比較して回答項目の順序に大きな変動はありませんでした。

「2) 地域活動への参加状況について」と同じように 60 歳代以下は「時間的な余裕」を、70 歳代以上は「活動を行うための自分自身の健康」を選択した方が多い傾向にあります。

【これまでの取り組みと今後の方向性】

本会では地域住民同士の交流や地域の活動への参加を促すため「地域内交流助成金事業」や「出前サロン事業」、「異世代交流事業」などを継続し、地域住民が交流する機会創出や活性化を目指して事業を実施して来ました。

しかし今般の新型コロナウイルスなどの影響により、休止や縮小を余儀なくされた事業もあり、現在も実施を見合わせている事業もあります。

一方で市の地域福祉計画の基本施策「地域づくり活動の支援」の中では地域住民の取り組み内容として、地域住民による交流事業の実施や確保を挙げています。

新型コロナウイルスとの共存(ウィズコロナ)を前提としながら、コロナ終息後(ポストコロナ)を見据えつつ、引き続き本会でも地域住民主体による交流活動を支援していくと共に、地域住民だけでの交流活動が困難な地域に対しては本会が交流機会を創出・企画して、地域住民の交流を促進します。

③地域の支え合いに関する考えについて

1)【A】地域で困っている世帯があった場合、自分ができること(複数回答)

【B】地域の人に手助けしてもらおう場合、自分が希望すること(複数回答)

〈回答者数 253 人〉

項 目	【A】 できること			【B】 希望すること		
	回答数 (人)	割合 (%)	前回比 (%)	回答数 (人)	割合 (%)	前回比 (%)
安否確認の声かけ	181	71.5	+4.4	133	52.6	+1.7
話し相手	104	41.1	±0.0	64	25.3	+0.4
玄関前の掃除や除雪	85	33.6	△4.7	74	29.2	+4.3
ごみ出し	70	27.7	-4.8	35	13.8	+0.1
ちょっとした買い物	67	26.5	△8.9	40	15.8	+3.5
災害時の避難誘導	60	23.7	△1.9	92	36.4	+7.5
ちょっとした家事 (電球交換など)	46	18.2	△7.4	25	9.9	△0.2
悩み事、心配事の相談	39	15.4	△0.1	29	11.5	△5.9
短時間の子どもの預かり	12	4.7	△2.5	4	1.6	1.0
病院の付き添い	9	3.6	△1.1	3	1.2	△5.3
子育ての相談	8	3.2	△1.2	4	1.6	△0.2
保育園等の送迎	8	3.2	△0.1	0	0.0	△0.4
病気の時の看病	2	0.8	△1.7	7	2.8	△1.6
その他	13	5.1	+2.6	21	8.3	+3.2
無回答	11	4.3	△1.4	21	8.3	△4.7

設問【A】では「安否確認の声かけ」、「話し相手」、「玄関前の掃除や除雪」の回答数が多く前回調査と同じような結果になりました。

設問【B】でも「安否確認の声かけ」の次に「災害時の避難誘導」が続きました。前回調査と同じように「できること」と「希望すること」の順に相違が見られました。

市アンケートの「問 20 地域で協力して取り組むことが必要な問題」(複数回答)として回答件数が多い順から、

- ・「高齢者世帯への支援」・・・686 人
- ・「災害時の助け合い」・・・145 人
- ・「障がいのある人への支援」・・・42 人

となりました。前回の結果と比較して「高齢者世帯への支援」を選んだ方が圧倒的に多くなっており、前回、最も多かった「災害時の助け合い」を大きく引き離しトップになっています。

同じく市アンケートの「問 28 災害が発生したときにあなたができること」では、「安否確認の声かけ」が最も多く 779 人、反対に「問 29 災

害が発生したときに援助してほしいこと」では「避難行動の支援」が最も多く 750 人となっています。

2) 地域の人々が協力して住みよい地域社会を実現する上で、問題になると考えられることについて(3つまで選択可) 〈回答者数 253 人〉

項目	回答数 (人)	割合 (%)	前回比 (%)
近所付き合いが減っていること	135	53.4	△2.2
地域活動への若い人の参加が少ないこと	92	36.4	△0.5
地域での交流機会が少ないこと	81	32.0	+12.2
地域に関心がない人が多いこと	72	28.5	△6.9
日中、地域を離れている人が多いこと	60	23.7	△3.4
他人に干渉されプライバシーが守れないこと	58	22.9	+2.3
町内会・自治会の活動に参加しにくい雰囲気があること	28	11.1	△4.5
助け合い、支え合いは必要ないと思うこと	23	9.1	+0.4
福祉サービス利用者（世帯）に偏見があること	8	3.2	+0.3
その他	11	4.3	+1.8
無回答	16	6.3	+0.2

近所付き合いの減少や地域活動への参加が少ないことを選ばれた方が多い一方で、「地域での交流機会が少ないこと」を選ばれた方が 12.2% 上昇しており、新型コロナウイルスの影響も考えられます。

市アンケートの「問 21 地域づくりの課題」（複数回答）としては、

- ・「住民の価値観が多様化していること」・・・・・・・・・・505 人
 - ・「近所づきあいが希薄になっていること」・・・・・・・・・・442 人
- が多くなっており、前回と同じような結果となっています。

同じく、「問 22 地域づくり（地域活動）に重要なこと」（複数回答）では、「市民一人ひとりの認識の向上と積極的な参加」を選んだ方が最も多く（506 人）、地域に対する市民一人ひとりの意識や価値観が地域活動への参加に大きく影響していることが考えられます。

3) 日常生活で困っていることの有無について

項目	回答数 (人)	割合 (%)	前回比 (%)
ある	61	24.1	+2.5
ない	186	73.5	△0.5
無回答	6	2.4	△2.0
計	253	100.0	±0.0

困っている内容について尋ねたところ、

- ・「介護のこと」・・・23人
- ・「経済的なこと」・・・22人
- ・「病気のこと」・・・19人

という結果になっています。前回調査と比較して順位の変動はありませんが、上位は同じような傾向になっています。

市アンケートの「問 10 どのような悩みや不安を感じていますか」(複数回答)では、回答の多い順から

- ・「自分や家族の老後のこと」・・・607人
- ・「自分や家族の健康のこと」・・・579人
- ・「介護に関すること」・・・355人

となっており、老後や健康、介護に対する悩みや不安が多いという結果になっています。

4)日常生活で困りごとを相談している(したい)相手について(複数回答)

〈回答者数 253人〉

項目	回答数 (人)	割合 (%)	前回比 (%)
家族	181	71.5	△2.1
友人・知人	122	48.2	+3.5
親戚	84	33.2	+4.0
かかりつけの医師	31	12.3	+1.4
近所の人	30	11.9	+2.8
福祉サービス事業者 (ケアマネージャーやヘルパーなど)	26	10.3	+2.7
市役所	22	8.7	+1.1
相談しない	13	5.1	+1.9
社会福祉協議会	10	4.0	±0.0
相談できる人がいない	9	3.6	△0.8
町内会長(自治会長)	6	2.4	△2.3
民生児童委員	5	2.0	+0.2
その他	5	2.0	+0.5
福祉員	3	1.2	+0.8
ボランティア団体・NPO法人	0	0.0	△0.7
無回答	21	8.3	+0.4

相談相手で一番多かったのは「家族」、続いて「友人や知人」、「親戚」、といった順になっており、前回調査と比較して上位の順位に変動はありませんでした。

市アンケートの「問 11 生活の困り事や福祉サービス利用の相談先」(複数回答)として回答が多い順から

- ・「家族、親戚、知人」・・・・・・・・・・602 人
- ・「市役所の窓口」・・・・・・・・・・451 人
- ・「社会福祉協議会の窓口」・・・・・・・・303 人

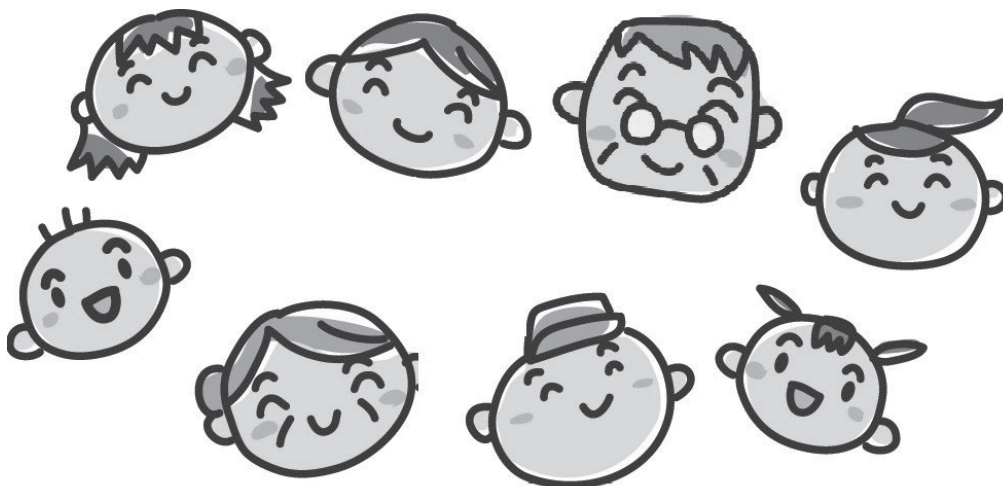
となっています。こちらも前回のアンケート結果と比較して順位に変動はありませんでした。前回と同じく相談先としての社会福祉協議会に対する認識が高くなっています。

【これまでの取り組みと今後の方向性】

本会では「町内会長・民生児童委員・社協福祉員合同懇談会」や「福祉員研修会」などを通じて、地域のつながりや住民がお互いを支え合う地域づくりについて話合ってきました。また、新型コロナウイルスの感染対策を行いながら、「高齢者等見守り巡回事業」による見守りや声かけを行い、高齢者等が孤立に陥らないよう巡回事業を行ってきました。日頃の地域住民同士による声かけや見守りが災害時などでの活動に活かされることもあり、今後も本会でも事業活動を通じて、地域住民の支え合いやつながりを意識しながら支援していきます。

困りごとの相談では、従来の日常生活の相談に関する一般相談や介護相談をはじめ、専門家による無料法律相談・無料登記相談、障がいのある方を対象とした計画相談事業所や生活困窮者を対象とした相談室など幅広い分野での相談を受け付けて来ました。特に今般は新型コロナウイルスの影響を受けて収入減や休業等により生活に困窮された方を対象とした特例貸付に関する相談も多く寄せられ、申請に至るまでの支援を行ってきました。

今後も職員の資質や相談援助技術の向上を図り、専門性を高めながら、横断的・包括的な相談体制の構築と強化を目指します。



④「にかほ市社会福祉協議会」(以下、「にかほ市社協」という)に関することについて

1)にかほ市社協について(どれくらい知っているか)

項目	回答数 (人)	割合 (%)	前回比 (%)
名前も活動内容も知っている	115	45.4	+0.6
名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない	113	44.7	△2.2
名前も活動内容も知らない	18	7.1	+1.3
無回答	7	2.8	+0.3
計	253	100.0	±0.0

「名前も活動内容も知っている」・「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」と回答された方の割合は合わせて約 9 割になっており、前回調査と比べて大きな変化は見られませんでした。

何でにかほ市社協を知ったか(複数回答)を尋ねたところ、多い順から

- ・「『にかほ市福祉だより』を見た」・・・183人(80.3%)
- ・「会費・募金活動などで知った」・・・82人(36.0%)
- ・「パンフレットやチラシを見た」・・・47人(20.6%)

という結果になっており、こちらも前回調査と上位の順位に変動はありませんでした。

市アンケートの「問 26 社会福祉協議会を知っていますか」という設問では「名前だけ知っている」529人(52.0%)、「よく知っている」333人(32.7%)合わせて約 8 割の方々より名前や存在を知られておりますが、活動内容等についての周知も必要と考えられます。



2)にかほ市社協が積極的に取り組むべき事柄について(3つまで選択可)

〈回答者数 253 人〉

項 目	回答数 (人)	割合 (%)	前回比 (%)
高齢者や障がい者への生活支援	128	50.6	+6.2
地域の支え合い、ふれあい、見守り活動 (ネットワーク活動)	119	47.0	+1.2
介護保険事業 (在宅介護サービス)	80	31.6	△0.9
子育て支援	53	20.9	+4.3
生活困窮者への支援活動	49	19.4	+6.0
福祉情報の提供・発信	34	13.4	△2.4
防災や災害対策	27	10.7	△2.3
相談事業・個別支援	26	10.3	△2.7
介護予防・生きがいづくり事業	25	9.9	△7.1
子供たちへの福祉教育	22	8.7	+0.8
福祉団体等への助成・援助	16	6.3	+2.0
ボランティア活動の支援・育成	15	5.9	△3.1
成年後見や金銭管理支援	8	3.2	△1.5
その他	8	3.2	+2.8
無回答	20	7.9	△2.9

前回調査で二番目に回答件数が多かった「高齢者や障がい者への生活支援」が今回の調査では最も多く選ばれました。前回調査と同じように地域の見守りや介護保険事業などが上位を占めていますが、「子育て支援」や「生活困窮者への支援活動」も順位を上げており、幅広い世代や分野を対象とした事業活動が期待されているものと思われます。

市アンケートの「問 27 社会福祉協議会に期待する活動」の結果で回答が多い順では

- ・「福祉サービスの利用援助」・・・・・・・・・・ 306 人
- ・「在宅生活を続けていくための支援」・・・・・・・・ 242 人
- ・「高齢者などへの見守り訪問や声かけ」・・・・・・・・ 208 人

と前回調査と同じような順位になっております。住み慣れた自宅や地域に住みながら安心して生活できるようなサービスや支援が求められています。

【これまでの取り組みと今後の方向性】

本会では「にかほ福祉だより」の発行をはじめ、各種事業の実施やイベントの開催、サービスの提供などにより、知名度の向上や事業内容の周知を図ってきました。特に知名度が低いと思われる子どもや若年層、子育て世代などを対象とした事業や取り組みとして、学校での福祉教育への職員の派遣や共同募金を財源とした新たなイベント事業（「動物ふれあい事業」、「夏休み・冬休みわくわく事業」等）を開催してきました。アンケートの結果では本会の活動内容については知らない方が多く、今後も広報をはじめ、各種事業を通じて活動内容の周知を図るとともに、若年層や子育て世代に対してもインターネットなどの通信手段を活用しながら、アプローチしていきます。

また、本会が積極的に取り組む事柄について、アンケート結果では「高齢者や障がい者への生活支援」、「地域の支え合い、ふれあい、見守り活動（ネットワーク活動）」、「介護保険事業（在宅介護サービス）」が上位に挙がっています。

本会では介護サービスの提供や「日常生活自立支援事業」などの事業を通じて、高齢者や障がい者などの在宅生活を支援してきました。

今後、高齢化の進行に伴い、声かけや見守りが必要な高齢者等も増えることが予想されます。支援や介護が必要になった場合は、速やかに適切なサービスや制度の利用につながるよう、地域住民や関係機関と連携・協力できるような体制の強化を図ります。



⑤ ボランティア活動に関することについて

1) ボランティア活動の経験について

項目	回答数 (人)	割合 (%)	前回比 (%)
ある	95	37.5	△2.2
ない	156	61.7	+3.9
無回答	2	0.8	△1.7
計	253	100.0	±0.0

前回調査と比べてボランティア活動に参加した経験が「ある」方の割合は微減、「ない」方の割合が微増しています。

ボランティア活動に参加した経験が「ある」と回答された方に、その動機を尋ねたところ（複数回答）、多い順から

- ・「自分たちに必要な活動だから」・・・36人
- ・「困っている人や団体に頼まれたから」・・・21人
- ・「学校の授業等で機会があったから」・・・21人

と続いています。特に「学校の授業等で機会があったから」は前回調査より6.7%割合が増加しています。今後、教育の場でのボランティア活動を促すような働きかけも必要と思われれます。

また、活動の内容については、

- ・「環境関係（自然愛護や美化運動、リサイクル運動など）」・・・56人
- ・「高齢者関係（友愛訪問、老人クラブやサロン活動の支援、施設訪問交流）」・・・31人
- ・「障がい者関係（手話、車椅子補助、社会参加・生活支援や施設訪問）」・・・19人

といった結果になりました。

一方、ボランティア活動に参加した経験が「ない」方の理由（複数回答）については、

- ・「仕事や家事で時間がとれないから」・・・91人
 - ・「自分の健康に不安があるから」・・・40人
 - ・「一度始めると拘束されて、やめられなくなりそうだから」・35人
- という結果になりました。

20歳代から60歳代では仕事や家事など時間的な事情から、70歳以上では健康上の理由などで参加できない方が多いという結果になりました。また、ボランティア活動や団体に拘束されそうという理由から、ボランティアをしていないという方も増えており、そうした事情への配慮やサポートも必要とされます。

2) ボランティア活動の輪を広げるために必要なことについて(3つまで選択可)

〈回答者数 253 人〉

項目	回答数 (人)	割合 (%)	前回比 (%)
ボランティア活動についての情報提供を積極的に行う	110	43.5	+0.5
学校教育の一環としてボランティア活動を活発に行う	92	36.4	+0.6
企業などがボランティア休暇を認めるなどの特別な配慮をする	75	29.6	+1.8
ボランティアの経済的負担を軽減するための交通費など実費を補助する	71	28.1	△5.9
ボランティア活動に関する相談や拠点となる場所を提供する	62	24.5	△1.5
ボランティア研修を開催し、人材を養成する	47	18.6	△5.6
地域での子どものボランティア活動を活発に行う	45	17.8	+2.6
その他	8	3.2	+2.1
わからない	37	14.6	+4.5
無回答	9	3.6	△4.0

回答項目の多い順位は前回調査と概ね変わりはありませんでした。今後も引き続きボランティア活動については情報提供や学校教育を通じたボランティア活動など、本会の事業を通じて支援や機会の提供を図る必要があります。



【これまでの取り組みと今後の方向性】

本会では独自でボランティアデーを定め参加者を集いながらボランティア活動の機会を提供してきました。また、ボランティアに関する講習会なども開催してきましたが、前回のアンケート結果と同様にボランティアの経験がない方が約6割に上っています。また、ボランティア関連団体の解散や新型コロナウイルスの影響による活動の制限、ボランティアの固定化ややり手がいらないなどが課題として挙げられます。

アンケート結果ではボランティアの輪を広げるために必要なこととして、情報提供を積極的に行うことや学校教育の一環としてボランティア活動を行うことが多くの方より選ばれています。

新型コロナウイルスの影響によりボランティア活動にも制限はありますが、今後も「にかほ福祉だより」などを通じて、ボランティア行事や研修会への参加を呼び掛けるとともに、「小中高助成金事業」による学校単位でのボランティア活動を促していきます。また、引き続き共同募金を財源とした助成事業の公募により、福祉関係団体にボランティア活動を呼び掛け、ボランティア活動を希望する団体の支援を行います。

一方、近年において県内でも自然災害が多発しており、災害ボランティアに関する養成講座を適時開催しながら、「災害ボランティアセンター設置マニュアル」(仮称)を整備していきます。



⑥今後の地域福祉のあり方について

1)福祉に関する情報の入手方法について(複数回答)

〈回答者数 253 人〉

項目	回答数 (人)	割合 (%)	前回比 (%)
広報にかほ	208	82.2	+5.7
にかほ福祉だより (「にかほ市社会福祉協議会」発行)	154	60.9	+2.7
市のパンフレットなど	79	31.2	+3.1
家族や友人・知人	39	15.4	△2.6
テレビやラジオ	32	12.6	△2.5
新聞	30	11.9	△5.1
特に入手していない	23	9.1	+0.8
回覧板	20	7.9	△2.9
インターネット	20	7.9	+2.5
福祉員	13	5.1	+0.4
隣近所の人	12	4.7	△2.5
民生委員・児童委員	11	4.3	±0.0
書類や雑誌	9	3.6	△1.1
その他	3	1.2	+0.5
無回答	2	0.8	△2.8

福祉についてどのような情報を知りたいか尋ねたところ(3つまで選択可)、多い順から

- ・「福祉サービスの利用方法についての情報」・・・119人
- ・「高齢者や障がい者についてのサービスの情報」・・・103人
- ・「介護保険や福祉のサービス提供事業者のサービス内容の情報」
・・・82人

といった結果になりました。

前回調査と比較して、回答数の多い順位に大きな変動はありませんでした。

2)住み慣れた地域で安心して生活するために必要だと思うことについて
(3つまで選択可)

〈回答者数 253 人〉

項 目	回答数 (人)	割合 (%)	前回比 (%)
社会保障制度（年金・医療・介護）の安定を図る	125	49.4	△0.4
支援を必要とする人の多様なニーズに応えられるような豊富な種類のサービスを用意する	109	43.1	△3.1
福祉に関する情報提供を充実させる	92	36.4	△3.7
福祉に関するサービスを提供する事業者を増やす	46	18.2	+3.0
多くの住民が福祉に関する関心を高められるような啓発を行う	46	18.2	△0.2
道路・商店・病院・公共施設・公共交通機関などのバリアフリー化を進める	41	16.2	+2.1
地域の中で福祉に関する活動の中心となる人材を育てる	38	15.0	△11.7
学校などで福祉に関する教育を充実させる	36	14.2	+4.1
住民間の調整や住民と関係団体をつなぐ人材を育てる	32	12.6	+1.1
地域福祉活動の拠点となる場所（サロン）を創出する	20	7.9	△1.5
福祉に関するボランティア活動を活発にする	15	5.9	△2.7
その他	6	2.4	+2.4
無回答	10	4.0	△1.8

前回・前々回調査（H23）に引き続き「社会保障制度（年金・医療・介護）の安定を図る」が最も多い回答件数を得られました。

一方で「地域の中で福祉に関する活動の中心となる人材を育てる」が前回調査に比べて 11.7%も減少しています。

人口減少や高齢化などの影響により地域福祉の担い手不足も懸念されますが、特定の個人に負担が掛からないような人材育成のあり方や支援体制の構築も考えなければならないと思われます。

3)地域福祉を充実させていく上で望まれる地域と「にかほ市社協」との関係について

項目	回答数 (人)	割合 (%)	前回比 (%)
家庭や地域をはじめ住民同士が助け合い、手の届かない部分は社協が援助するべきである	40	15.8	△4.1
福祉の充実のために、地域も社協も協力し合い、ともに取り組むべきである	140	55.3	△0.3
福祉を充実するのは社協の役割であり、地域はそれほど協力することはない	7	2.8	+2.8
社協が役割を果たし、手の届かない部分は住民が協力するべきである	32	12.6	±0.0
その他	3	1.2	+1.2
わからない	25	9.9	+2.0
無回答	6	2.4	△1.6
計	253	100.0	±0.0

アンケートの結果では、前回調査と同じく「福祉の充実のために、地域も社協も協力し合い、ともに取り組むべきである」を選ばれた方が一番多くなりました。

市の地域福祉計画にもあるとおり「自助」「共助」「公助」※3の3つの視点で地域住民一人ひとりが主役となり、お互いに支え合い助け合いながら地域共生社会の実現に向けて取り組むことが求められています。

用語解説

※3 「自助」「共助」「公助」

「自助」…個人や家庭による自助努力のこと。

「共助」…地域社会における相互扶助（隣近所や友人、知人とのお互いの助け合い）や民間非営利活動・事業、ボランティア、住民活動、社会福祉法人などによる支えのこと。

「公助」…公的な制度としての福祉・保健・医療その他の関連する施策に基づくサービス供給のこと。

【これまでの取り組みと今後の方向性】

今回のアンケート結果では福祉に関する情報として、福祉サービスの利用方法や高齢者や障がい者についてのサービス情報を知りたいという回答が多く寄せられました。「にかほ福祉だより」でも本会に関連する事業紹介などは行ってきましたが、実際のサービス利用については、来所・面談などで専用のパンフレットなどを用いた説明や電話での対応を行ってきました。

同じくアンケート結果では、住み慣れた地域で安心して暮らすために必要なこととして、前回調査と同じく「社会保障制度の安定を図る」、「支援が必要な方の多様なニーズに応えられるような豊富な種類のサービスを用意する」が多く選ばれています。

本会では独自事業として、日常生活での支援が必要で、既存の制度では対応できない方にヘルパーを派遣する「すこやか家事援助事業」を行っており、これまで多くの方からご利用いただいています。また生活困窮者自立支援事業の一環として、フードバンク^{※4}との協力・連携による食料支援や一般企業での就労体験なども実施しています。

今日、制度の狭間や制度が十分に機能していないため、支援が行き届いていない福祉課題（ひきこもり、8050 問題^{※5}、ヤングケアラー^{※6}、就労困難者など）やニーズ（成年後見制度^{※7} など）も複雑多様化しています。今後の社会情勢や地域社会の変化による新たな福祉課題やニーズに対応する上で、新たな事業やサービスの開発に取り組みます。

用語解説

※4 フードバンク

企業や個人から寄付してもらった食料を生活困窮者や児童・障がい者施設などに無償で提供する活動やそれを行う団体のこと。

※5 8050 問題

ひきこもりの長期化や高齢化から引き起こされる社会問題。80代の親が50代の子とも同居して経済的支援をするという問題。

※6 ヤングケアラー

要介護状態の家族のために大人が担うようなケアの責任を引き受け、家事や家族の世話のサポートを行っている18歳未満の子ども。

※7 成年後見制度

認知症、知的障がい、精神障がい等により、物事を判断する能力が十分でない方の権利を保護するため、財産管理や契約手続きなどについて、家庭裁判所から選任された後見人等が代理で行う制度

第 3 章

基本理念と基本目標



第3章

基本理念と基本目標

1 基本理念

《基本理念》

みんなが主役 みんなでつくる福祉のまち「にかほ」

本会では、平成30年3月に「第3期にかほ市地域福祉活動計画」を策定し、基本理念として『みんなで助けあい安心して暮らせるまち「にかほ」』を掲げ、地域住民・関係機関・行政等との連携と協働により事業活動を展開してきました。

計画の実施期間中には、社会情勢の変化や法制度の動向に対応し、年度ごとに目標や計画を立てて、改善や見直しを行いながら各事業を実施してきました。児童や親子を対象とした新たな事業（親子料理教室、移動動物園等）の開発や生活困窮者支援を通じた新たな取り組み（一般企業での就労体験等）、令和元年度には福祉員を対象とした「困難を有する若者等のアンケート調査」（ひきこもり含む）も実施してきました。

しかしながら、今般の新型コロナウイルス感染拡大の影響で事業の休止や規模の縮小、対象者を限定した活動にならざるを得ず、居場所や人とのつながりの喪失による孤立なども懸念されます。一方で今までの制度や分野では対応が難しい複雑な福祉課題も増えてきており、尚一層の相談支援体制の充実強化が求められています。

今年度実施した住民アンケート調査の結果では、本会が積極的に取り組むべき事柄として、高齢者や障がい者の生活支援や、地域での支え合い、ふれあい、見守り活動（ネットワーク活動）が多くの方から選ばれました。また、地域福祉を充実させていく上で、地域と本会が協力し合い、ともに取り組むことが望まれる、といった回答が最も多く選ばれています。市アンケートでも地域づくり（地域活動）に重要なこととして、市民一人ひとりの認識の向上と積極的な参加が多く選ばれており、地域住民の福祉ニーズや地域福祉に関する意向を確認させていただきました。

昨年度、市で策定した「第4期にかほ市地域福祉計画」では前の福祉計画を継承しつつ「快適に暮らせるまち・子育てしたいまち・高齢者が元気

なまち」を基本理念に掲げ、「自助・共助・公助」と「参画と協働」をさらに充実させ「地域共生社会」の実現を目指しています。

地域福祉の主役である地域住民はもちろんのこと行政や関係機関等との協力・連携のもとで、一体的に地域福祉を推進することが期待されています。

市の地域福祉計画との連携を意識しつつ、第3期計画の実施経過や反省、住民アンケート調査の結果などを踏まえ、支援の「受け手」と「支え手」の垣根を超え、世代や分野を超えたあらゆる地域住民が役割をもってつながり、福祉のまちづくりに携わることを目指し、上記の基本理念を掲げ計画を策定します。



2 基本目標と実施項目(体系図)

1 基本理念

みんなが主役 みんなでつくる福祉のまち「にかほ」

(1) 住民参加や協働による支え合うまちづくりを目指します

地域住民の参加と協働による福祉活動を推進し、地域の福祉活動を担う人材やボランティアの育成、情報提供、啓蒙活動、福祉教育に取り組みます。

(2) 交流やつながりの機会を提供し生きがいと仲間づくりを推進します

さまざまな交流機会を提供し社会参加の促進を図り、生きがいづくりと仲間づくりを目指します。

(3) 相談支援体制を充実しサービス利用者の権利擁護・生活支援に努めます

様々な生活課題に対する相談支援体制の充実・強化に努め、福祉サービスの利用援助や生活支援に努めます。

(4) 安心して質の高い在宅介護サービスを提供し利用者の在宅生活を支援します

利用者の自立生活を支援するため、質の高い、安心・安全な在宅介護サービスを提供します

(5) 適切な法人運営と組織管理、効率的な事業経営に取り組みます

組織経営と経営力の強化を図り、財務・人事管理能力を高め効率的な事業経営と適切な法人運営に努めます

2 基本目標

3 実施項目

- ①町内会長・民生児童委員・福祉員合同懇談会(地域福祉ネットワーク事業含む)
- ②住民座談会事業 ③住民アンケート調査事業 ④地域福祉活動推進事業
- ⑤福祉員研修会 ⑥地域内交流助成金事業 ⑦ボランティアセンター事業
- ⑧ボランティア育成事業 ⑨サマーボランティアスクール事業
- ⑩手話養成講習会★(福) ⑪認知症サポーター養成講座
- ⑫赤十字事業への協力 ⑬共同募金運動への協力 ⑭防火査察事業
- ⑮社協・老人クラブ意見交換会 ⑯生活支援コーディネーター★(包)
- ⑰社会福祉大会の開催 ⑱地域福祉活動計画の策定

- ①総合事業 ミニディサービス事業★(包) ②元気百歳館運営管理事業★(長)
- ③すこやか家事援助事業 ④シルバー健康推進事業 ⑤ふれあい交流会事業
- ⑥シルバー料理教室 ⑦各種団体への助成・協力 ⑧おもちゃライブラリー事業
- ⑨映画上映会 ⑩出前サロン事業 ⑪異世代交流事業
- ⑫雪国高齢者の健康づくり事業 ⑬動物ふれあい事業
- ⑭夏休み・冬休みわくわく事業 ⑮みんなの元気アップ事業

- ①一般相談 ②無料法律相談★(健) ③無料登記相談 ④介護相談
 - ⑤相談事例検討会 ⑥日常生活自立支援事業 ⑦たすけあい資金貸付事業
 - ⑧生活福祉資金貸付事業 ⑨にかほ市総合生活相談室事業★(福)
 - ⑩高齢者等声かけ見守り巡回事業★(長) ⑪緊急通報システム事業★(長)
 - ⑫見守りネットワーク形成(配食)事業★(包) ⑬外出支援事業★(長)
 - ⑭家族介護教室事業★(包) ⑮安心生活見守り支援事業★(包)
- ※①～⑤ふれあい相談所事業

- ①居宅介護支援事業 ②訪問介護事業 ③通所介護事業
- ④短期入所生活介護事業 ⑤計画相談支援事業所事業
- ⑥介護予防支援・介護予防ケアマネジメント★(包)
- ⑦要介護認定調査事業★(長) ⑧住宅改修支援事業★(長)

※②③総合事業含む、④介護予防含む

- ①理事会 ②評議員会 ③監査会 ④正副会長会議 ⑤総務部会
- ⑥地域福祉部会 ⑦在宅福祉部会 ⑧広報委員会(にかほ福祉だよりの発行)
- ⑨ボランティアセンター運営委員会 ⑩役員研修会 ⑪職員研修会
- ⑫事業推進・適正化会議 ⑬事業担当者会議 ⑭内部検査の実施
- ⑮ホームページの公開 ⑯新たな事業・サービスの検討・開発

★…市の受託事業

(長)長寿支援課 (包)地域包括支援センター (福)福祉課 (健)健康推進課

第 4 章

実施計画(具体的な展開)



第4章

実施計画(具体的な展開)

1 事業内容と現状及び方向性

基本目標(1)

住民参加や協働による支え合うまちづくりを目指します。

番号	(1)-①			
事業名	町内会長・民生児童委員・福祉員合同懇談会 (地域福祉ネットワーク事業含む)			
事業内容	地域の福祉関係者を一堂に会して合同懇談会を開催し、社協並びに地域福祉ネットワーク事業に対する理解と協力を求めます。また、参加者相互の意見交換・情報交換の機会を設けます(市内3地域ごとに年1回開催)。			
主な財源	自主			
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 自治(町内)会の事例紹介や情報交換などを交えて開催し、地域の交流やネットワーク事業に対する理解や協力を求めて来ました。 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、令和2年度から休止しています。 			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染状況や関係者の意見等も聞きながら開催を検討します。(市内3地域ごとに年1回開催)。 			
事業目標		開催回数	参加人員 (3地域合計)	アンケート評価 (内容について)
	【現状値】			
	令和3年度	0回	0人	未実施
	令和5年度	年3回(各地域1回)	150名～	良い・やや良い80%～
	令和6年度	年3回(各地域1回)	150名～	良い・やや良い80%～
	令和7年度	年3回(各地域1回)	170名～	良い・やや良い85%～
	令和8年度	年3回(各地域1回)	170名～	良い・やや良い85%～
令和9年度	年3回(各地域1回)	180名～	良い・やや良い85%～	



▲町内会長・民生児童委員・福祉員合同懇談会(P40)

番号	(1)-②		
事業名	住民座談会事業		
事業内容	各地域で広く座談会の開催を呼び掛けて実施します。また、要請に応じて地域の集会行事に役職員が出向きます（随時対応）。		
主な財源	自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報等で開催を呼び掛けてきましたが、新型コロナウイルスの影響もあり、参集しての会合もなくなっています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治（町内）会や集落サロン、老人クラブ等を開催を呼び掛け、対応します（随時対応）。 		
事業目標		開催回数	参加人員
	【現状値】		
	令和3年度	0回	0名
	令和5年度	10回～	150名～
	令和6年度	10回～	150名～
	令和7年度	15回～	225名～
	令和8年度	15回～	225名～
令和9年度	15回～	225名～	

番号	(1)-③		
事業名	住民アンケート調査事業		
事業内容	地域福祉活動計画策定に向けて市民を対象としたアンケート事業を実施します。		
主な財源	自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度に市民500名を対象にアンケート調査を実施し、253名の方より回答がありました。 ・ 社協活動の認知度は45.4%にとどまっています（前計画目標50%） 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次期の地域福祉活動計画策定の前年の令和8年度に実施します。 ・ 社会の変化を把握するため、必要に応じて調査を行います。 		
事業目標		実施計画	社協活動の認知度
	【現状値】		
	令和4年度	実施（500名中253名返答）	45.4%
	令和5年度		
	令和6年度		
	令和7年度	検討	
	令和8年度	実施（500名対象）・検証	50%～
令和9年度	（地域福祉活動計画策定）		

番号	(1)-④	
事業名	地域福祉活動推進事業	
事業内容	にかほ市内の自治（町内）会に対して地域福祉活動推進費を助成し、広報配布及び募金活動などを通じて、見守り、声掛け活動等を支援します（通年）。	
主な財源	自主・共同募金	
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報配布や募金活動への協力を呼び掛けて、地域の見守りや声かけを支援しました。 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も自治（町内）会に広報配布などの協力を呼び掛けて、見守り活動を支援します（通年）。 	
事業目標		配分地区数
	【現状値】	
	令和3年度	象潟 63 地区、金浦 38 地区、仁賀保 33 地区
	令和5年度	象潟 63 地区、金浦 38 地区、仁賀保 33 地区
	令和6年度	象潟 63 地区、金浦 38 地区、仁賀保 33 地区
	令和7年度	象潟 63 地区、金浦 38 地区、仁賀保 33 地区
	令和8年度	象潟 63 地区、金浦 38 地区、仁賀保 33 地区
令和9年度	象潟 63 地区、金浦 38 地区、仁賀保 33 地区	

番号	(1)-⑤		
事業名	福祉員研修会		
事業内容	ネットワークの構成員である福祉員の研修（年1回）を開催し、関係機関との連携のもとで地域福祉の推進を図ります。		
主な財源	共同募金		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルスの影響により令和2、3年度は休止しました。 ・ 令和4年度より再開し、社協や福祉員の役割を確認し、研修会を行っています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容を工夫しながら、参加を呼びかけます。（市内3地域ごとに年1回開催）。 		
事業目標		開催回数	参加人数及び参加率 (3地域合計)
	【現状値】		
	令和3年度	0回	0名(0%)
	令和5年度	年3回(各地域1回)	70名～(50%～)
	令和6年度	年3回(各地域1回)	70名～(50%～)
	令和7年度	年3回(各地域1回)	77名～(55%～)
	令和8年度	年3回(各地域1回)	77名～(55%～)
令和9年度	年3回(各地域1回)	84名～(60%～)	

番号	(1)-⑥	
事業名	地域内交流助成金事業	
事業内容	自治（町内）会、集落単位等の交流事業に対して助成金を交付し、地域内の交流活動を推進します。	
主な財源	自主	
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度は30件の応募がありましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2年には12件と大幅に減少しました。 令和4年度は18件の申請があり件数も徐々に増えてきました。 申請する自治（町内）会等も固定化し新規の申請は伸び悩んでいます。 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 申請があった自治（町内）会の取り組みなども紹介しながら、新規の申請を促す取り組みを行います。 	
事業目標		申請件数
	【現状値】	
	令和3年度	12件
	令和5年度	20件～
	令和6年度	23件～
	令和7年度	25件～
	令和8年度	28件～
令和9年度	30件～	

番号	(1)-⑦			
事業名	ボランティアセンター事業			
事業内容	ボランティア活動についての相談や登録、斡旋、各種研修会の開催、福祉教育への協力などを行います（通年）。			
主な財源	共同募金			
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアデー（環境美化活動）や災害ボランティア講座などを通じてボランティアに関する事業を行ってききましたが、アンケート結果では活動経験者は4割未満でした。 ボランティア登録団体の解散や活動休止、メンバーも高齢化が進み、ボランティアデーへの参加者も減少しています。 			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果なども踏まえボランティアデーや講座以外の事業について検討、開発し、ボランティアの育成に努めます（通年）。 			
事業目標		ボランティアデー	講座	新たな取り組み
	【現状値】			
	令和3年度	年1回、60名参加	0回、0名	
	令和5年度	年2回～、100名～	年1回～、40名～	計画期間中にボランティア育成に関する新たな取り組みを検討、実施します。
	令和6年度	年2回～、100名～	年1回～、40名～	
	令和7年度	年2回～、100名～	年1回～、45名～	
	令和8年度	年2回～、120名～	年1回～、45名～	
令和9年度	年2回～、120名～	年1回～、50名～		

番号	(1)-⑧		
事業名	ボランティア育成事業		
事業内容	福祉教育の推進（小・中・高の生徒を対象にボランティア体験学習の推進等総合的な援助）を行います（通年）。また、学校ごとに福祉活動に関する助成金を交付します。		
主な財源	共同募金		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 学校から福祉教育の協力依頼も増えてきており、仁賀保高校では年間通して定期的実施されています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 今後更に学校側への周知を進めていきます（通年）。 		
事業目標		助成金交付学校数	講師派遣学校数
	【現状値】		
	令和3年度	市内8校	市内4校
	令和5年度	市内8校	市内4校～
	令和6年度	市内8校	市内4校～
	令和7年度	市内8校	市内5校～
	令和8年度	市内8校	市内5校～
令和9年度	市内8校	市内6校～	

番号	(1)-⑨		
事業名	サマーボランティアスクール事業		
事業内容	夏季休暇期間を利用して、市内小学5～6年生並びに中学生を対象に福祉体験の場（保育園体験・介護教室など）を提供します。		
主な財源	自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 支所ごとに内容を検討し受け入れ先を確保しながら実施してきました。 全体で出来ることは合同で開催しました。 令和2年度以降は新型コロナウイルスの感染拡大により休止が続いています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 年度ごとに新型コロナウイルスの感染状況次第で開催の可否を判断します。 活動内容（プログラム）の変更や子供向けの防災時のデイキャンプや勉強会等新しい取り組みについて検討します。 		
事業目標		参加人数	プログラム数
	【現状値】		
	令和3年度	0名	0件
	令和5年度	100名～	10件
	令和6年度	100名～	10件
	令和7年度	130名～	11件
	令和8年度	130名～	11件
令和9年度	150名～	12件	
計画期間中に新たな取り組みについて検討、実施します。			

番号	(1)-⑩					
事業名	手話養成講習会					
事業内容	手話に興味のある方を対象に、より多くの方々に手話を身に付けていただくために手話講座を開催します。					
主な財源	共同募金					
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、令和2年度から開催できずになりました。令和3年度より「親子手話教室」は再開しています。 					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 単発での開催も依頼があれば引き受けて実施します（通年）。 					
事業目標		実施回数				
		入門講座	基礎講座	合同学習会	親子手話	その他
	【現状値】 令和3年度	0回	0回	0回	1回	
	令和5年度	25回～	25回～	1回～	2回～	単発での講座開催依頼にも対応します（年1回～）。
	令和6年度	25回～	25回～	1回～	2回～	
	令和7年度	25回～	25回～	1回～	2回～	
	令和8年度	25回～	25回～	1回～	2回～	
令和9年度	25回～	25回～	1回～	2回～		

番号	(1)-⑪		
事業名	認知症サポーター養成講座		
事業内容	認知症に対する市民の理解を深めることを目的に認知症サポーター養成講座を開催します。		
主な財源	自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 市や団体からの依頼に応じて適宜開催しました。 内容も寸劇などを交えながら工夫して実施しました。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 今後も日程調整等を行いながら開催を促します（随時対応）。 		
事業目標		実施回数	参加人数
	【現状値】 令和3年度	0回	0名
	令和5年度	1回～	20名～
	令和6年度	1回～	20名～
	令和7年度	2回～	40名～
	令和8年度	2回～	40名～
令和9年度	2回～	40名～	

番号	(1)-⑫		
事業名	赤十字事業への協力		
事業内容	日本赤十字社活動資金に係る事務や収受について協力し、毎年5月を「赤十字運動月間」として市民に赤十字事業への理解と協力を得る運動を促進します。		
主な財源	日赤		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 活動資金は年々減少しています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 活動資金の使途（防災講座の開催、災害見舞金など）や赤十字活動を紹介し協力を呼びかけます。 災害時の義援金の受付にも協力します（通年）。 		
事業目標		会員加入率	その他
	【現状値】		
	令和3年度	75.2%	計画期間中、防災講座の開催依頼や災害見舞金の送呈、災害時の義援金受付に協力します（随時対応）。
	令和5年度	75.5%～	
	令和6年度	75.5%～	
	令和7年度	75.8%～	
	令和8年度	75.8%～	
令和9年度	76.0%～		

番号	(1)-⑬					
事業名	共同募金運動への協力					
事業内容	赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金に係る事務、募金の収受について、地域住民への理解と協力を得ながら実施します（10～12月）。					
主な財源	共同募金					
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 共同募金による配分事業を紹介しながら募金活動を行って来ましたが、募金額は減少しています。 法人募金は新型コロナウイルスの経済的な影響も鑑み、募金方法を変更して実施してきました。 					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 広報等で共同募金による配分事業を紹介しながら、事業の中でも募金活動を実施し財源の確保に努めます。 法人募金については年度ごとに募金方法を協議します（通年）。 					
事業目標		戸別募金 (協力世帯割合)	法人・個人 大口募金	職域募金	街頭募金	イベント 募金
	【現状値】					
	令和3年度	74.8%	163件	46ヶ所	6ヶ所	1回～
	令和5年度	75.0%～	160件～	46ヶ所～	6ヶ所～	2回～
	令和6年度	75.0%～	160件～	46ヶ所～	6ヶ所～	2回～
	令和7年度	75.2%～	165件～	47ヶ所～	6ヶ所～	3回～
	令和8年度	75.2%～	165件～	47ヶ所～	6ヶ所～	3回～
令和9年度	75.5%～	170件～	48ヶ所～	6ヶ所～	3回～	

番号	(1)-⑭		
事業名	防火査察事業		
事業内容	消防関係者と同行して高齢者世帯を訪問し、火の元や防火機器の点検・確認を行います（年2回）。		
主な財源	自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中止した時期もありますが、再開しています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との協議しながら実施します（支所ごとで春・秋の年2回実施）。 		
事業目標		実施回数	訪問世帯数
	【現状値】		
	令和3年度	1回	14世帯
	令和5年度	2回	30世帯
	令和6年度	2回	30世帯
	令和7年度	2回	30世帯
	令和8年度	2回	30世帯
令和9年度	2回	30世帯	

番号	(1)-⑮		
事業名	社協・老人クラブ意見交換会		
事業内容	老人クラブ3支部役員との意見交換会を開催し、3支部及び単位老人クラブ相互の協力関係の強化と事業活動の活性化を図ります。		
主な財源	自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブ3支部役員を対象に第3期計画期間中の平成30年度に開催しましたが、それ以降は開催されていません。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブ3支部役員の皆さんの意向を確認しながら、事業の見直しも含めて話し合いを行います 		
事業目標		実施回数	参加人数
	【現状値】		
	令和3年度	0回	0名
	令和5年度	見直し	—
	令和6年度	(未定)	—
	令和7年度	(未定)	—
	令和8年度	(未定)	—
令和9年度	(未定)	—	

番号	(1)-⑯		
事業名	生活支援コーディネーター		
事業内容	地域における多様な主体と連携しながら、にかほ市独自の日常生活の支援体制の強化・充実を推進します。		
主な財源	受託・自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・支所ごとで職員を配置して実施しています。 ・新たな居場所の創出につながった地域もあります。 		
今後の方向性	・関係機関との協議しながら実施します（通年）。		
事業目標		生活支援コーディネーター数 (社協職員)	活動日数(合計)
	【現状値】 令和3年度	3名	237日
	令和5年度	委託元の市や関係機関との協議しながら実施します (通年)。	
	令和6年度		
	令和7年度		
	令和8年度		
	令和9年度		

番号	(1)-⑰			
事業名	社会福祉大会の開催			
事業内容	社協活動への理解を深め、福祉の意識高揚を図ることを目的に福祉大会を開催します。			
主な財源	自主			
これまでの反省と課題、現状	・令和2年度に開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、令和3年度に規模を大幅に縮小して「社会福祉功労者表彰式」として開催しました。			
今後の方向性	・計画では令和7年度の開催を目途にしますが、関係者の話合いのもと開催年度を検討します。			
事業目標		実施状況	参加者数	アンケート結果
	【現状値】 令和3年度	「社会福祉功労者表彰式」として開催 ・11月19日(金) ・仁賀保勤労青少年ホーム	46名	未実施
	令和5年度	検討	—	—
	令和6年度	検討	—	—
	令和7年度	実施	300名	総合評価で「良い、やや良い」 <u>70%~</u> を目標にします。
	令和8年度	—	—	—
	令和9年度	—	—	—

番号	(1)-⑩		
事業名	地域福祉活動計画の策定		
事業内容	にかほ市地域福祉計画の策定に伴い、地域住民や本会、福祉活動を行う団体等の行動計画を策定します。		
主な財源	自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度 3 月に第 3 期計画を策定し、現在第 4 期計画を策定中です。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民及び関係機関の参画のもとで、次期計画を第 4 期計画期間中の令和 9 年度に策定します。 		
事業目標		実施状況	計画の管理
	【現状値】		
	令和 3 年度	※第 3 期計画期間中	
	令和 5 年度	第 4 期計画開始	(各年度)
	令和 6 年度	—	<ul style="list-style-type: none"> 計画内容を踏まえ事業を実施します。
	令和 7 年度	—	<ul style="list-style-type: none"> 計画の達成状況等の評価・分析を行います。
	令和 8 年度	検討	<ul style="list-style-type: none"> 評価等より必要に応じて見直し等を行います。
令和 9 年度	第 5 期計画策定		



▲ボランティア育成事業 (P 4 4)



▲共同募金運動への協力 (P 4 6)

基本目標(2)

交流やつながりの機会を提供し生きがいと仲間づくりを推進します。

番号	(2)-①			
事業名	総合事業ミニディサービス事業			
事業内容	要支援者を含めた生活機能が低下している方に対し、参加者の心身の健康促進を目的として、内容を検討、工夫しながら事業を展開します（支所ごとで月2回開催）。			
主な財源	受託			
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大により、一時期休止した時期もありますが現在は再開しています。 ・支所によっては利用者数が少ないところもあります。 			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と協議をしながら実施していきます（支所ごとで月2回）。 ・「高齢者等声かけ見守り巡回事業」等を通じて新規利用者増を目指します。 			
事業目標		開催回数	実人数	延人数
		(3支所合計)		
	【現状値】 令和3年度	55回	63名	693名
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と協議をしながら実施していきます（支所ごとで月2回）。 ・「高齢者等声かけ見守り巡回事業」等を通じて新規利用者増を目指します。 		
	令和6年度			
	令和7年度			
	令和8年度			
令和9年度				

番号	(2)-②			
事業名	元気百歳館運営管理事業			
事業内容	施設の管理委託を行います（通年）。			
主な財源	受託			
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活支援体制整備事業」による居場所づくりを通じて、活用機会も増加しています。 			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と協議をしながら実施していきます（通年）。 			
事業目標		利用日数	利用回数	延利用者数
	【現状値】 令和3年度	112日	130回	1,294名
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と協議をしながら実施していきます（通年）。 		
	令和6年度			
	令和7年度			
	令和8年度			
	令和9年度			

番号	(2)-③		
事業名	すこやか家事援助事業		
事業内容	介護認定などを受けていない方などで生活上の支援が必要な方に対してヘルパーを派遣し自立生活を支援します。		
主な財源	自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 支所によって利用者の数に偏りがみられます。 利用者も固定しています。 		
今後の方向性	ヘルパーの人員を確保しながらサービスを提供します（随時対応）。		
事業目標		実人数	延利用回数
		(3支所合計)	
	【現状値】 令和3年度	9名	127回
	令和5年度	10名～	130回～
	令和6年度	10名～	130回～
	令和7年度	10名～	130回～
	令和8年度	10名～	130回～
令和9年度	10名～	130回～	

番号	(2)-④		
事業名	シルバー健康推進事業		
事業内容	高齢者の方々を対象に、心身の健康の保持及び、親睦と交流を目的にスポーツ関連行事を開催、支援します（支所ごとに年1回開催）。		
主な財源	共同募金		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 支所ごとに老人クラブやグラウンドゴルフ協会の活動で活用され、多くの参加者から喜ばれています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して開催し、参加者の健康増進と交流を目指します（支所ごとに年1回）。 		
事業目標		開催回数	参加人数
		(3支所合計)	
	【現状値】 令和3年度	0回（雨天・コロナで中止）	0名
	令和5年度	2回～	140名～
	令和6年度	2回～	140名～
	令和7年度	3回～	170名～
	令和8年度	3回～	170名～
令和9年度	3回～	170名～	

番号	(2)-⑤		
事業名	ふれあい交流会事業		
事業内容	一人暮らし高齢者の方々を対象にお互いの交流と励ましを目的に交流会を開催します（支所ごとで年1回開催）		
主な財源	共同募金		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年度より休止しています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染状況等を見ながら開催の可否を判断します（支所ごとで年1回）。 		
事業目標		開催回数	参加人数
		(3支所合計)	
	【現状値】		
	令和3年度	0回	0名
	令和5年度	3回	140名～
	令和6年度	3回	140名～
	令和7年度	3回	180名～
	令和8年度	3回	180名～
	令和9年度	3回	180名～

番号	(2)-⑥		
事業名	シルバー料理教室		
事業内容	高齢者を対象にバランスのとれた食事を学習する講習会を開催します（支所ごとで年1～2回開催）。		
主な財源	共同募金		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 好評ですが、参加者が固定化しつつあるという課題もあります。 新型コロナウイルスの感染予防の観点から、定員数を制限せざるを得ない状況です。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染状況なども見ながら、参加者の定員数を引き上げることも検討して実施します（支所ごとで年1～2回開催） 		
事業目標		開催回数	参加人数
		(3支所合計)	
	【現状値】		
	令和3年度	1回	5名
	令和5年度	3回～	30名～
	令和6年度	3回～	45名～
	令和7年度	5回～	60名～
	令和8年度	5回～	70名～
	令和9年度	5回～	80名～

番号	(2)-⑦	
事業名	各種団体への助成・協力	
事業内容	福祉関係団体等の社会活動への参加を促進するため、活動を行う団体を助成します。要望に応じて団体事業や活動を支援・協力します。	
主な財源	共同募金	
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度より助成団体の公募制を取り入れて実施しました。 応募団体の減少や固定化、新規の応募団体がないなどが課題になっています。 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 共同募金を財源として各団体の事業に助成し活動の活性化を図ります。 広報等で制度の周知を行いながら、新規の助成団体の受入れを促します（随時対応）。 	
事業目標		助成団体数
	【現状値】	
	令和 3 年度	6 団体
	令和 5 年度	7 団体（新規 1 件）～
	令和 6 年度	7 団体～
	令和 7 年度	8 団体（新規 1 件）～
	令和 8 年度	8 団体～
	令和 9 年度	9 団体（新規 1 件）～

番号	(2)-⑧		
事業名	おもちゃライブラリー事業		
事業内容	おもちゃ遊びを通じて、子供同士や親子で楽しくふれあう機会を提供します（仁賀保月 2 回実施）。		
主な財源	共同募金		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い令和 2 年度より休止しています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染状況を見ながら関係機関と協議をして再開を検討します（仁賀保支所月 2 回実施）。 		
事業目標		実施回数	参加人数
	【現状値】		
	令和 3 年度	0 回	0 名
	令和 5 年度	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃボランティアや会場の「フェライト子ども科学館」の意向を確認、協議しながら再開を検討します。 月 2 回開催、年間延べ利用者 120 名を目指します。 	
	令和 6 年度		
	令和 7 年度		
	令和 8 年度		
令和 9 年度			

番号	(2)-⑨		
事業名	映画上映会		
事業内容	小学生を対象に学校の長期休暇中を利用して映画を上映し、交流の場を提供します（各小学校で持ち回り開催）。		
主な財源	共同募金		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅で簡単に映画が見られるようになってきたため、参加者が集まらなくなっています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見直しを行い「映画上映会」に代わる子どもを対象とした事業を検討します。 		
事業目標		開催回数	参加人数
	【現状値】		
	令和3年度	1回	26名
	令和5年度	見直し	—
	令和6年度	未定	—
	令和7年度	未定	—
	令和8年度	未定	—
	令和9年度	未定	—

番号	(2)-⑩		
事業名	出前サロン事業		
事業内容	サロンを実施していない町内を対象に交流の場として開催します（支所ごと市内3ヶ所で開催）。		
主な財源	共同募金		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ サロンを実施している地域からも映画上映や講話などの要望があり、適宜対応しています。 ・ サロン未実施の地域からの要望はあまりありません。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ サロン未実施の地域にも開催を呼び掛け周知を図ります。 ・ サロン実施地域も依頼があれば適宜対応します（随時）。 		
事業目標		開催回数	参加人数
		(3支所合計)	
	【現状値】		
	令和3年度	1回	10名
	令和5年度	2回～	20名～
	令和6年度	2回～	25名～
	令和7年度	3回～	30名～
	令和8年度	3回～	35名～
	令和9年度	3回～	40名～

番号	(2)-⑪		
事業名	異世代交流事業		
事業内容	小学生と老人クラブを対象に異世代の交流を目的に開催します（支所ごとと市内3ヶ所で開催）。		
主な財源	共同募金		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 餅つきや昔遊びなどで交流の機会を設けてきました。 令和2年度以降は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い休止しています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 年度ごとに新型コロナウイルスの感染状況を見ながら開催の可否を判断します。 		
事業目標		開催回数	参加人数
		(3支所合計)	
	【現状値】		
	令和3年度	0回	0名
	令和5年度	3回～	100名～
	令和6年度	3回～	105名～
	令和7年度	3回～	110名～
	令和8年度	3回～	115名～
	令和9年度	3回～	120名～

番号	(2)-⑫		
事業名	雪国高齢者の健康づくり事業		
事業内容	山間部等の高齢者を対象に、ねたきり予防、閉じこもり予防を目的に、冬季に健康づくりの講習会を実施します（支所ごとで年1回開催）。		
主な財源	共同募金		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 交流や外出の機会が減少する冬期間に開催し好評を得ていました。 令和2年度以降は新型コロナウイルスの影響で休止しています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 今後も年度ごとに新型コロナウイルスの感染状況を見ながら開催の可否を判断します（支所ごとで年1回開催）。 		
事業目標		開催回数	参加人数
		(3支所合計)	
	【現状値】		
	令和3年度	0回	0名
	令和5年度	3回～	60名～
	令和6年度	3回～	60名～
	令和7年度	3回～	70名～
	令和8年度	3回～	70名～
	令和9年度	3回～	80名～

番号	(2)-⑬		
事業名	動物ふれあい事業		
事業内容	移動動物園で普段ふれあう機会がない珍しい動物とのふれあいを通じて、家族にふれあいの場を提供します。		
主な財源	共同募金		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度から開始された事業で、親子連れには好評を得ています。 新型コロナウイルスの感染拡大により、感染対策、人数制限等を実施しています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの状況を見ながら、感染対策や人数・時間制限などを考慮した上で開催していきます（年 2 回）。 		
事業目標		開催回数	参加人数
	【現状値】		
	令和 3 年度	0 回	0 名
	令和 5 年度	2 回～	600 名～
	令和 6 年度	2 回～	600 名～
	令和 7 年度	2 回～	700 名～
	令和 8 年度	2 回～	700 名～
	令和 9 年度	2 回～	800 名～

番号	(2)-⑭		
事業名	夏休み・冬休みわくわく事業		
事業内容	学校の長期休み中に、幼児、小学生を対象としたイベントを開催します。		
主な財源	共同募金		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 令和 3 年度より開始された事業で人形劇鑑賞や地引網体験などを実施しています。 親子連れで参加される方が多く、参加者からも好評です。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの状況を見ながら、感染対策を行った上で、親子で楽しめるような内容を協議して開催します（年 2 回）。 		
事業目標		開催回数	参加人数
	【現状値】		
	令和 3 年度	2 回	71 名
	令和 5 年度	2 回～	100 名～
	令和 6 年度	2 回～	110 名～
	令和 7 年度	2 回～	110 名～
	令和 8 年度	2 回～	120 名～
	令和 9 年度	2 回～	120 名～

番号	(2)-⑮		
事業名	みんなの元気アップ事業		
事業内容	鑑賞会や体験を通して、自分の趣味や生きがいを再発見させます。		
主な財源	共同募金		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度より開始された事業で芸能団体の民謡鑑賞を行い参加者からも好評です。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの状況を見ながら、感染対策を行った上で、芸能鑑賞やワークショップなど内容を協議して開催します（年1回）。 		
事業目標		開催回数	参加人数
	【現状値】		
	令和4年度	1回	55名
	令和5年度	1回～	50名～
	令和6年度	1回～	50名～
	令和7年度	1回～	60名～
	令和8年度	1回～	60名～
令和9年度	1回～	70名～	



▲異世代交流事業（P55）



▲夏休み・冬休みわくわく事業（P56）

基本目標(3)

相談支援体制を充実しサービス利用者の権利擁護・生活支援に努めます。

番号	(3)-①		
事業名	一般相談（ふれあい福祉相談所事業）		
事業内容	日常生活上の様々な問題に対して相談窓口を設置し、適切な助言や支援、対応を行います（支所ごとで随時対応）。		
主な財源	自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響による収入減貸付のなどで相談が多くなった年度もありました。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 相談内容に応じて制度や専門の機関につなぐことができるよう職員の資質向上を図ります（支所ごとで随時対応）。 		
事業目標		相談件数	市のアンケートによる「生活の困り事や福祉サービス利用の相談先」での“社会福祉協議会の窓口”を選ばれた方の割合（複数回答）
	【現状値】		
	令和3年度	33件	29.8%
	令和5年度	40件～	
	令和6年度	40件～	
	令和7年度	45件～	
	令和8年度	45件～	<u>目標 35%～</u>
令和9年度	50件～		

番号	(3)-②		
事業名	無料法律相談（ふれあい福祉相談所事業）		
事業内容	弁護士による人権、財産、借金等専門的な相談を予約受付します（象潟・仁賀保支所対応）。		
主な財源	共同募金・受託		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 開催日によっては予約数がすべて埋まる日もあり市民への周知も進んでいるものと思われます。 一般市民以外で関係者からの問合せや予約もあります。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 「にかほ福祉だより」やホームページ等を通じて、周知を図ります（奇数月：象潟支所、偶数月：仁賀保支所対応）。 		
事業目標		相談件数（予約率：年間72件＝100%）	
	【現状値】		
	令和3年度	33件（45.8%）	
	令和5年度	35件（48.6%）～	
	令和6年度	35件（48.6%）～	
	令和7年度	38件（52.8%）～	
	令和8年度	38件（52.8%）～	
令和9年度	40件（55.6%）～		

番号	(3)-③	
事業名	無料登記相談（ふれあい福祉相談所事業）	
事業内容	司法書士による登記関係、相続問題等の相談を予約受付します（金浦支所対応）。	
主な財源	自主	
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 開催日によっては予約数がすべて埋まる日もあり、相談件数も増えています。 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 今後も「にかほ福祉だより」やホームページ等を通じて、周知を図ります（奇数月：金浦支所対応）。 	
事業目標		相談件数（予約率：年間 24 件＝100%）
	【現状値】	
	令和 3 年度	5 件（20.8%）
	令和 5 年度	6 件（25.0%）～
	令和 6 年度	6 件（25.0%）～
	令和 7 年度	7 件（29.2%）～
	令和 8 年度	7 件（29.2%）
令和 9 年度	8 件（33.4%）	

番号	(3)-④		
事業名	介護相談（ふれあい福祉相談所事業）		
事業内容	介護サービスや福祉制度についての相談や苦情などについて、適切な助言や支援、対応を行います（支所ごとで随時対応）。		
主な財源	自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 相談件数は年度や支所により増減があり、全体的には横ばい傾向です。 新規の相談から介護認定やサービス利用につながっています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 今後、団塊の世代が後期高齢者になることで、介護の相談が増えることも予想されます。 相談に対応できる職員の育成に努めます（支所ごとで随時対応）。 		
事業目標		相談件数	車イス貸出件数
	【現状値】		
	令和 3 年度	121 件	8 台
	令和 5 年度	130 件～	車イスの台数に限りがあるため、在庫に応じて随時対応します。
	令和 6 年度	130 件～	
	令和 7 年度	140 件～	
	令和 8 年度	140 件～	
令和 9 年度	150 件～		

番号	(3)-⑤	
事業名	相談事例検討会（ふれあい福祉相談所事業）	
事業内容	相談員（社協職員）の資質向上のため検討会を開催し、相談対応能力の向上を図ります（年1回開催）。	
主な財源	自主	
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 事例を通じてどのような制度や関係機関、サービスにつないだか検討してきました。 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな分野や他事業での相談事例を取り上げながら、相談員（社協職員）の資質向上に努めます（年1回以上開催）。 	
事業目標		実施回数
	【現状値】	
	令和3年度	年1回
	令和5年度	年1回～
	令和6年度	年1回～
	令和7年度	年1回～
	令和8年度	年1回～
令和9年度	年1回～	

番号	(3)-⑥		
事業名	日常生活自立支援事業		
事業内容	高齢者や障がい者の方々が、地域で安心して暮らせるよう福祉サービスの手続きや、日常生活に必要な金銭管理のお手伝いを行います（随時対応）。		
主な財源	自主・受託		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 年度や支所により偏りはありますが、全体的に利用者は増加傾向にあります。 関係者や他機関からの問合せも増えています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 今後も相談は増えてくることが予想され、利用者の受け入れに必要な体制の整備に努めます（随時対応）。 		
事業目標		利用者数	担当職員数
	【現状値】		
	令和3年度	11名	3名
	令和5年度	11名～	3名～
	令和6年度	11名～	3名～
	令和7年度	12名～	4名～
	令和8年度	12名～	4名～
令和9年度	13名～	4名～	

番号	(3)-⑦		
事業名	たすけあい資金貸付事業		
事業内容	生活等のつなぎ資金として、生活困窮世帯等に貸出を支援し、一時的な生活環境の改善を図ります（随時対応）。		
主な財源	自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・お金を借りては返すを繰り返す方も多く、対応を検討する必要があります。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性的な生活費不足や負債などがあれば、他の制度（生活困窮者自立支援事業や無料法律相談など）の紹介も行い対応します（随時対応）。 		
事業目標		新規貸付件数	新規貸付金額
	【現状値】		
	令和3年度	14件	375,000円
	令和5年度	随時対応	
	令和6年度	随時対応	
	令和7年度	随時対応	
	令和8年度	随時対応	
令和9年度	随時対応		

番号	(3)-⑧		
事業名	生活福祉資金貸付事業		
事業内容	秋田県社会福祉協議会での貸付事業で、利用者の手続きの補助や調査等を行います（随時対応）。		
主な財源	補助		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で経済的に困難な状況に陥った方を対象とした特例貸付制度で申請・決定件数も増加しましたが、特例貸付制度終了後の相談は減少しています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・相談があった際は丁寧に聞き取りを行い、貸付の申請や手続きについて補助・支援します（随時対応）。 		
事業目標		新規貸付件数	新規貸付金額
	【現状値】		
	令和3年度	13件	3,360,000円
	令和5年度	随時対応	
	令和6年度	随時対応	
	令和7年度	随時対応	
	令和8年度	随時対応	
令和9年度	随時対応		

番号	(3)-⑨			
事業名	にかほ市総合生活相談室事業			
事業内容	制度の狭間にいる生活困窮者等に対して相談を受け、自立に向けた支援を行います（仁賀保支所で随時対応）。			
主な財源	受託			
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 生活困窮者自立支援法の施行と同時に開設され、生活困窮者等の自立に向けて様々な支援活動を実施しています。 計画期間中に民間企業の就労体験先の確保やフードドライブ等にも取り組みました。 			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 今後も様々な制度や社会資源を活用し自立に向けた支援を行います（仁賀保支所で随時対応）。 			
事業目標		新規相談件数	支援件数	プラン作成件数
	【現状値】			
	令和3年度	43名	2,877件	20件
	令和5年度	40名～	2,800件～	18件～
	令和6年度	40名～	2,800件～	18件～
	令和7年度	43名～	2,850件～	20件～
	令和8年度	43名～	2,850件～	20件～
令和9年度	45名～	2,900件～	23件～	

番号	(3)-⑩		
事業名	高齢者等声かけ見守り巡回事業		
事業内容	市内の75歳以上の高齢者世帯を対象に声かけや安否確認、不安感の軽減を目的に巡回事業を行います（市内年6回巡回）。		
主な財源	受託・自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 年間6回の巡回を2名体制で実施しています。 訪問を心待ちにしている対象者もあり、民生児童委員と連携しながら取り組んできました。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と協議をしながら実施したいと思います（年間6回、市内巡回）。 今後、巡回の対象者が増加することも見込まれ、援助が必要な方には適切なサービスにつながるよう支援します。 		
事業目標		実施回数	延訪問世帯数
	【現状値】		
	令和3年度	年6回	5,341世帯
	令和5年度	年6回～	計画期間中、委託元の市と協議しながら対象者の意向等を確認して訪問します（5,500世帯～）。
	令和6年度	年6回～	
	令和7年度	年6回～	
	令和8年度	年6回～	
令和9年度	年6回～		

番号	(3)-⑪		
事業名	緊急通報システム事業		
事業内容	緊急時に消防署に通報する緊急通報装置の新規取付や取外し等の連絡調整を行います（随時）。		
主な財源	受託		
これまでの反省と課題、現状	・「高齢者等声かけ見守り巡回事業」を通じて取り付けにつながるケースも多くなっています。		
今後の方向性	・関係機関との協議しながら実施します（支所ごとに随時対応）。 ・あらゆる機会を利用して新規の設置を促します。		
事業目標		新規設置台数	設置台数
	【現状値】		
	令和3年度	17台	178台
	令和5年度	計画期間中、委託元の市と協議しながら利用者の意向等を確認して設置します。	
	令和6年度		
	令和7年度		
	令和8年度		
令和9年度			

番号	(3)-⑫			
事業名	見守りネットワーク形成（配食）事業			
事業内容	単身・高齢者世帯で希望される方に安否確認を兼ねて弁当を配達します（支所ごとに月3回実施）。			
主な財源	受託			
これまでの反省と課題、現状	・各支所の利用者は0~2名と少なく新規の利用もほとんどありません。			
今後の方向性	・関係機関と協議をしながら実施していきます（支所ごとに月3回実施）。			
事業目標		実施回数	実人数	延人数
		(3支所合計)		
	【現状値】			
	令和3年度	87回	6名	202名
	令和5年度	・関係機関と協議をしながら実施していきます（支所ごとに月3回実施）。		
	令和6年度			
	令和7年度			
令和8年度				
令和9年度				

番号	(3)-⑬		
事業名	外出支援事業		
事業内容	公共交通機関の利用が困難な利用者を医療機関まで送迎します。		
主な財源	受託		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 各支所の利用者は1～5名で固定しています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と協議をしながら実施していきます（随時対応）。 		
事業目標		利用者数	延利用回数
		(3支所合計)	
	【現状値】 令和3年度	5名	37回
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と協議をしながら実施していきます（随時対応）。 	
	令和6年度		
	令和7年度		
	令和8年度		
令和9年度			

番号	(3)-⑭		
事業名	家族介護教室事業		
事業内容	在宅で介護されている方々を対象に軽スポーツや参加者の交流を通じてリフレッシュや介護方法の習得等の機会を提供します（年1回）。		
主な財源	受託		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度より3支所合同で開催しています。 在宅介護者が対象のため、一日家を空けることが難しいという声もあります。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と協議をしながら実施していきます（年1回）。 		
事業目標		実施回数	参加人数
	【現状値】 令和3年度	1回	4名
	令和5年度	1回～	4名～
	令和6年度	1回～	4名～
	令和7年度	1回～	5名～
	令和8年度	1回～	5名～
	令和9年度	1回～	6名～

番号	(3)-⑮		
事業名	安心生活見守り支援事業		
事業内容	認知症や認知症が疑われる高齢者に訪問介護員が訪問し、軽度の生活支援や見守りを行い、自立生活を支援します（各支所で通年対応）。		
主な財源	受託		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度や支所ごとに利用者や件数の増減はありますが、受け入れできる体制を整えて対応してきました。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の依頼に応じて対応できる体制を整えます（各支所で通年対応）。 		
事業目標		年間利用者実人数 (3事業所合計)	年間延利用回数 (3事業所合計)
	【現状値】 令和3年度	12名	297回
	令和5年度	地域包括支援センターからの依頼に応えられるよう、訪問介護員を適切に配置して対応します（ <u>12名～、300回～</u> ）。	
	令和6年度		
	令和7年度		
	令和8年度		
	令和9年度		



基本目標(4)

安心で質の高い介護サービスを提供し利用者の在宅生活を支援します

番号	(4)-①		
事業名	居宅介護支援事業		
事業内容	介護支援専門員（ケアマネージャー）が介護相談や介護計画（ケアプラン）の作成等の居宅介護支援を提供します（各支所で随時対応）。		
主な財源	自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 新規利用者の増加に伴い、支所ごとに介護支援専門員（ケアマネージャー）を増員して体制を整えてきましたが全体的に職員は不足しています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 有資格者の確保や職員の資格取得を進め受入体制の強化を図ります。 事業所ごとに各種取組の評価向上を目指します。 		
事業目標		(上段) 介護支援専門員の 従事者数	介護サービス情報公表制度※8による 各種取組の評価（3事業所平均） 7項目×5段階評価（35=100%） ※各種取組の7項目は下記のとおり
		(下段) 1ヶ月の平均 利用者数 (3事業所合計)	
	【現状値】	16.2名	
	令和3年度	542.9名	32.4（92.6%）
	令和5年度	介護支援専門員	32.4（92.6%）～
	令和6年度	を適切に配置し、	33.5（95.7%）～
	令和7年度	利用者の受入に	33.5（95.7%）～
令和8年度	対応します（ <u>利用者数</u>	33.8（96.6%）～	
令和9年度	<u>550名～</u> ）	33.8（96.6%）～	

※介護サービス情報公表制度による各種取組の7項目の内容（各事業共通）

1. 利用者の権利擁護の取組
2. サービスの質の確保への取組
3. 相談・苦情等への対応
4. 外部機関等との連携
5. 事業運営・管理の体制
6. 安全・衛生管理等の体制
7. その他（従業員の研修の状況等）

用語解説

※8 介護サービス情報公表制度

介護保険法に基づき平成18年4月からスタートした制度で、利用者が介護サービスや事業所・施設を比較・検討して適切に選ぶための情報を都道府県が提供する仕組み。インターネット上の「介護サービス情報公表システム」を使うことで、誰でも気軽に情報を入手することができる。

番号	(4)-②		
事業名	訪問介護事業（総合事業含む）		
事業内容	訪問介護員（ヘルパー）が要介護（要支援）高齢者に対し身体介護や生活援助など適切なサービスを提供します（各支所・たんぽぽで通年対応）。		
主な財源	自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・重度の要介護利用者が減少傾向で家事援助が多くなっているところや障がいのある方の利用が増えているところもあります。 ・訪問介護員（ヘルパー）のなり手不足や高齢化などの課題もあります。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・職員を適正に配置し受入体制の強化とサービスの質の向上を図ります。 ・障がいのある方の利用や介護以外の問題を抱えている利用者も増えており、関係機関との連携のもと対応していきます。 		
事業目標		（上段） 訪問介護員の従事者数	介護サービス情報公表制度による 各種取組の評価（3事業所平均） 7項目×5段階評価（35=100%）
		（下段） 1ヶ月平均利用者数 （3事業所合計）	
	【現状値】	42名	30.7（87.6%）～ 31.3（89.4%）～ 31.3（89.4%）～ 31.7（90.6%）～ 31.7（90.6%）～
	令和3年度	214.2名	
	令和5年度	訪問介護員を適切に 配置し、在宅介護サー ビスを提供します（利 用者数220名～）。	
	令和6年度		
	令和7年度		
令和8年度			
令和9年度			

番号	(4)-③			
事業名	通所介護事業（総合事業含む）			
事業内容	利用者を施設まで送迎し、日常動作訓練や入浴等の各種サービスを提供します（たんぽぽで通年対応）。			
主な財源	自主			
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の実人数に大きな変化はありませんが、利用者一人ひとりの利用回数は減少傾向にあります。 			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズなどを確認しながらサービスの質の向上を図ります。 ・特色や魅力のある事業所を目指します。 			
事業目標		1日あたり平均利用者数（定員40名）	介護サービス情報公表制度による 各種取組の評価 7項目×5段階評価（35=100%）	
		【現状値】	利用者のニーズを確 認し、一人あたりの 利用回数を増やせる よう取り組みます。 （利用者数25名～）	
	令和3年度	23.2名		33（94.3%）～
	令和5年度			33（94.3%）～
	令和6年度			33（94.3%）～
	令和7年度			34（97.1%）～
令和8年度	34（97.1%）～			
令和9年度	34（97.1%）～			

番号	(4)-④		
事業名	短期入所生活介護事業		
事業内容	要介護及び要支援状態にある利用者の方々に対し、ケアプランに基づき短期入所サービスを提供します（たんぽぽで通年対応）。		
主な財源	自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 利用者全体の平均要介護度は軽度化の傾向にあります。 長期の利用は減少傾向にあり、利用者の入れ替わりが多くなっています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 利用者やご家族の意向やニーズを確認しながら、利用者が長期間でも安心・快適に過ごせるよう環境整備やサービスの質の向上を図ります。 		
事業目標		1日あたり平均利用者数（定員25名）	介護サービス情報公表制度による各種取組の評価 7項目×5段階評価（35=100%）
	【現状値】		
	令和3年度	22.6名	33（94.3%）～
	令和5年度	利用者等のニーズを確認しながら、長期間でも安心・快適に過ごせるよう取り組みます（利用者数23.5名～）。	33（94.3%）～
	令和6年度		33（94.3%）～
	令和7年度		34（97.1%）～
	令和8年度		34（97.1%）～
令和9年度	34（97.1%）～		

番号	(4)-⑤		
事業名	計画相談支援事業所事業		
事業内容	障がいのある方の相談を受け、利用者にあったサービス等利用計画を作成し、事業者間の連絡等を支援します（仁賀保支所で随時対応）。		
主な財源	受託・自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 計画期間中に利用者や支援件数の増加に伴い、専従の相談支援専門員を増員し対応しました。 相談支援専門員の養成にも努めてきました。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の中には複合的な福祉課題を抱えている方も多く、関係機関との連携協力のもとで事業を推進します（仁賀保支所で随時対応）。 		
事業目標		(上段) 相談支援専門員の従事者数 (下段) 年間相談者数	年間支援件数
	【現状値】	2名	
	令和3年度	80名	3,250件
	令和5年度	相談支援専門員を適切に配置して利用者の受入に対応し、プラン作成や支援を行います（相談者数80名～）。	3,300件～
	令和6年度		3,300件～
	令和7年度		3,300件～
	令和8年度		3,330件～
令和9年度	3,330件～		

番号	(4)-⑥	
事業名	介護予防支援・介護予防ケアマネジメント	
事業内容	地域包括支援センターからの受託により、介護支援専門員（ケアマネジャー）が要支援状態にある方々や総合事業対象者に対して、適切な介護計画（ケアプラン）を提供します（各支所で随時対応）。	
主な財源	受託	
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・年度や支所ごとで利用者の増減はありますが、全体では増加傾向にあり、適切に職員を配置して対応してきました。 ・利用者の状態に応じて介護保険事業の利用へつなぎました。 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活支援を進めるため、制度改正等を考慮しながら継続して実施します（各支所で随時対応）。 	
事業目標		1ヶ月平均利用者数（3事業所合計）
	【現状値】 令和3年度	114名
	令和5年度	地域包括支援センターからの依頼に応えられるよう、介護支援専門員を適切に配置し、利用者の受入に対応します（ <u>120名</u> ～）。
	令和6年度	
	令和7年度	
	令和8年度	
	令和9年度	

番号	(4)-⑦	
事業名	要介護認定調査事業	
事業内容	介護保険の要介護（要支援）申請や更新に係る調査業務を行います（各支所で随時対応）。	
主な財源	受託	
これまでの現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・計画期間中の認定調査件数は、ほぼ横ばいで推移しており、市の依頼に応じて対応してきました。 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・市の依頼に応じて対応します（各支所で随時対応）。 	
事業目標		年間調査件数（市内・市外）
	【現状値】 令和3年度	554件
	令和5年度	相談支援専門員を適切に配置して利用者の受入に対応し、プラン作成や支援を行います（ <u>560件</u> ～）。
	令和6年度	
	令和7年度	
	令和8年度	
	令和9年度	

番号	(4)-⑧	
事業名	住宅改修支援事業	
事業内容	要介護（要支援）の方で介護サービスを利用していない方の住宅改修の申請を支援します（各支所で随時対応）。	
主な財源	受託	
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・年度や支所ごとに利用者の増減はありますが、全体的に件数は少ないです。 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・市の依頼に応じて対応できる体制を整えます（各支所で随時対応）。 	
事業目標		年間利用者数（3事業所合計）
	【現状値】 令和3年度	2件
	令和5年度	地域包括支援センターからの依頼に応えられるよう、介護支援専門員を適切に配置して対応します（ <u>2件～</u> ）。
	令和6年度	
	令和7年度	
	令和8年度	
	令和9年度	



基本目標(5)

適切な法人運営と組織管理、効率的な事業経営に取り組みます。

番号	(5)-①	
事業名	理事会	
事業内容	法人の執行機関として、事業計画及び予算、事業報告及び決算、各種規程の見直しなど、法人運営の重要事項について審議し、本会の経営・運営について執行責任を持って事業を推進します。	
主な財源	自主	
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 概ね年2回程度開催しています。 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 年度ごとに事業計画及び予算、事業報告及び決算のほか、事業や規程などの重要事項について審議します。 適正な経営と組織管理、事業執行に努めます。 	
事業目標		開催回数
	【現状値】	
	令和3年度	年3回（役員改選）
	令和5年度	年3回（役員改選）～
	令和6年度	年2回～
	令和7年度	年3回（役員改選）～
	令和9年度	年3回（役員改選）～

番号	(5)-②	
事業名	評議員会	
事業内容	法人の議決機関として、事業計画及び予算、事業報告及び決算のほか、定款変更、理事の選任など法人運営の重要事項について議決・承認し、公正かつ適正な法人運営の構築に努めます。	
主な財源	自主	
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 概ね年2回程度開催しています。 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 年度ごとに事業計画及び予算、事業報告及び決算のほか、法人運営上の最重要事項について審議します。 適正かつ公正な法人運営に努めます。 	
事業目標		開催回数
	【現状値】	
	令和3年度	年2回
	令和5年度	年2回～
	令和6年度	年2回～
	令和7年度	年2回～
	令和9年度	年2回～

番号	(5)-③	
事業名	監査会	
事業内容	法人の監査機関として、業務全般の執行状況並びに経理・資産状況等について厳正に監査し、必要に応じて執行機関に意見を提出しながら適切に監査業務を実行します。	
主な財源	自主	
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 概ね年2回程度実施しています。 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 法人業務全般の執行状況や経理・資産状況について厳正に監査します。 適正な監査業務に努めます。 	
事業目標		実行回数
	【現状値】	
	令和3年度	年2回
	令和5年度	年2回
	令和6年度	年2回
	令和7年度	年2回
	令和9年度	年2回

番号	(5)-④	
事業名	正副会長会議	
事業内容	法人運営事業や会の運営に関することについて協議します。	
主な財源	自主	
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> 概ね年2回程度開催しています。 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 法人運営事業や必要な事項について協議します。 総務部会や理事会等へ報告・提案を行います。 	
事業目標		開催回数
	【現状値】	
	令和3年度	年1回
	令和5年度	年2回～
	令和6年度	年2回～
	令和7年度	年2回～
	令和9年度	年2回～

番号	(5)-⑤	
事業名	総務部会	
事業内容	法人運営や各種事業(新規)、表彰に関する事などについて協議します。	
主な財源	自主	
これまでの反省と課題、現状	・概ね年2回程度開催しています。	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 法人運営や新規事業及び表彰等に関する協議を行います。 適正な部会運営に努めます。 	
事業目標		開催回数
	【現状値】	
	令和3年度	年1回
	令和5年度	年2回～
	令和6年度	年2回～
	令和7年度	年2回～
	令和8年度	年2回～
令和9年度	年2回～	

番号	(5)-⑥	
事業名	地域福祉部会	
事業内容	地域福祉(ネットワーク、ボランティア等育成)等に関する事について協議します。	
主な財源	自主	
これまでの反省と課題、現状	・概ね年2回程度開催しています。	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 調査・広報、福祉大会、その他地域福祉に関する協議を行います。 適正な部会運営に努めます。 	
事業目標		開催回数
	【現状値】	
	令和3年度	年2回
	令和5年度	年2回～
	令和6年度	年2回～
	令和7年度	年2回～
	令和8年度	年2回～
令和9年度	年2回～	

番号	(5)-⑦	
事業名	在宅福祉部会	
事業内容	介護保険事業、障害福祉サービス、在宅福祉に関することについて協議します。	
主な財源	自主	
これまでの反省と課題、現状	・概ね年2回程度開催しています。	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険事業、障害福祉サービス、在宅福祉に関する協議を行います。 ・適正な部会運営に努めます。 	
事業目標		開催回数
	【現状値】	
	令和3年度	年2回
	令和5年度	年2回～
	令和6年度	年2回～
	令和7年度	年2回～
	令和8年度	年2回～
令和9年度	年2回～	

番号	(5)-⑧			
事業名	広報委員会（にかほ福祉だよりの発行）			
事業内容	「にかほ福祉だより」の発行や掲載内容等について協議します。地域福祉の啓蒙活動と本会の事業活動に対して住民の理解を深めることを目的に「にかほ福祉だより」を発行します（年5回開催・発行）。			
主な財源	自主・共同募金			
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね年5回程度開催しています。 ・広報発行を通じて地域福祉の啓蒙や社協の活動等の紹介に努めました。 			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・「にかほ福祉だより」の発行内容等について協議し、本会や事業活動に関する情報提供と地域福祉の啓蒙に努めます（年5回開催・発行）。 			
事業目標		開催回数	発行回数	住民アンケートによる福祉情報の取得先で「にかほ福祉だより」を選択された方の割合（複数回答）
	【現状値】			
	令和4年度	年5回	年5回	60.9%
	令和5年度	年5回	年5回	
	令和6年度	年5回	年5回	
	令和7年度	年5回	年5回	
	令和8年度	年5回	年5回	目標 70%～ （令和8年度実施予定）
令和9年度	年5回	年5回		

番号	(5)-⑨	
事業名	ボランティアセンター運営委員会	
事業内容	ボランティア活動や福祉教育に関する事業について協議します。	
主な財源	自主	
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて随時開催しています。 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動や福祉教育に関する事項について協議します。 ・ボランティア事業の活性化や啓蒙普及、人材育成に努めます。 	
事業目標		開催回数
	【現状値】	
	令和3年度	年0回
	令和5年度	年1回～
	令和6年度	年2回～
	令和7年度	年2回～
	令和9年度	年3回～

番号	(5)-⑩	
事業名	役員研修会	
事業内容	役員を対象に法人運営並びに地域福祉の向上に資することを目的に研修会を実施します。	
主な財源	自主	
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね年1回程度実施しています。 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・役職員を対象とした研修会を開催します。 ・法人運営並びに地域福祉の向上に努めます。 	
事業目標		実施回数
	【現状値】	
	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、役員による研修会は休止状態でした。
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染状況などを考慮し、感染予防を行いながら、<u>年1回以上</u>の研修会の実施を目指します。
	令和6年度	
	令和7年度	
	令和8年度	
令和9年度		

番号	(5)-⑪	
事業名	職員研修会	
事業内容	職員を対象に資質の向上を図ることを目的として研修会を開催します。また、外部の研修会・講座にも積極的に参加します。	
主な財源	自主	
これまでの反省と課題、現状	・必要に応じて適宜開催・参加しています。	
今後の方向性	・外部の研修等にも積極的に参加して職員の資質向上に努めます。	
事業目標		実施回数
	【現状値】 令和3年度	・必要に応じて随時開催・参加しました。
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> 課・部署・担当ごとで、<u>年1回以上</u>の職員の内部研修会を計画的に開催します。 一人の職員につき<u>年3回以上</u>の外部研修への参加を目指します。
	令和6年度	
	令和7年度	
	令和8年度	
	令和9年度	

番号	(5)-⑫	
事業名	事業推進・適正化会議	
事業内容	管理職で事業運営について話し合い、各課及び支所間の情報共有や連携強化を図ります。	
主な財源	自主	
これまでの反省と課題、現状	・必要に応じて随時開催しています。	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 管理職で事業運営について話し合います。 課・支所間で情報共有や連携強化を図りながら、事業に取り組みます。 	
事業目標		実施回数
	【現状値】 令和3年度	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、管理職が一堂に会しての開催は休止状態でした。
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染状況等を見ながら、感染拡大以前の<u>月1回</u>の定期開催を目指します。
	令和6年度	
	令和7年度	
	令和8年度	
	令和9年度	

番号	(5)-⑬	
事業名	事業担当者会議	
事業内容	各課及び担当職員間の情報共有と連携強化を図ることを目的に開催します。	
主な財源	自主	
これまでの反省と課題、現状	・必要に応じて随時開催しています。	
今後の方向性	・担当職員間の情報共有と連携強化を図りながら、事業に取り組みます。	
事業目標		実施回数
	【現状値】 令和3年度	・各課及び担当職員間ごとで適宜開催しました。
	令和5年度	・各課及び担当職員間ごとで適宜開催し、事業の方向性等について話し合います。
	令和6年度	
	令和7年度	
	令和8年度	
	令和9年度	

番号	(5)-⑭	
事業名	内部検査の実施	
事業内容	適切な業務執行に資することを目的に担当職員による内部検査を行います。	
主な財源	自主	
これまでの反省と課題、現状	・概ね年1回程度実施しています。	
今後の方向性	・職員の勤務状況や業務執行状況について検査を実施します。	
事業目標		実施回数
	【現状値】 令和3年度	年1回
	令和5年度	年1回～
	令和6年度	年1回～
	令和7年度	年1回～
	令和8年度	年1回～
	令和9年度	年1回～

番号	(5)-⑮		
事業名	ホームページの公開		
事業内容	ホームページを通して、にかほ市民や県外にいる方に対して幅広く情報を発信することを目的にホームページを開設、公開します（随時更新）。		
主な財源	自主		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを通じて法人運営の透明性を高め、情報公開に努めました。 ・ホームページによる事業への申し込み受付も実施しています。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もホームページを通じて情報公開、情報発信を行います（随時更新）。 		
事業目標		年間アクセス件数	更新状況
	【現状値】		
	令和3年度	～21,356件	必要に応じて随時更新
	令和5年度	4,000件～	必要に応じて随時更新
	令和6年度	4,000件～	
	令和7年度	4,500件～	
	令和8年度	4,500件～	
令和9年度	5,000件～		

番号	(5)-⑯		
事業名	新たな事業・サービスの検討・開発		
事業内容	地域の福祉課題の多様化や複雑化、新たな法制度の施行や改正など、計画期間中に福祉を巡る環境の変化も予想され、新たな事業やサービスを検討・開発が必要と考えられます。		
主な財源	自主・共同募金		
これまでの反省と課題、現状	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層や子育て世代を対象とした新たな事業を企画、実施し好評を得ています。 ・一般企業で就労体験や食料品の収集・提供、困難を有する若者等のアンケート調査など、新たな取り組みも行ってきました。 		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉制度や社会情勢などの変化やニーズに即した新たな事業・サービスを検討・開発に努めます（計画期間中）。 		
事業目標		新規事業等	
	平成30年度～令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・動物ふれあい事業、赤い羽根バザーの開催 ・高校生向け介護教室の開催 ・コープフードバンクと基本協定を締結 ・夏休み・冬休みわくわく芸能鑑賞会（子ども向け人形劇）の開催 ・困難を有する若者等のアンケート調査（福祉員対象）の実施 など 	
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・計画期間中に10件を目標として、新規事業やサービスの開発、新たな取り組みの創出に努めます。 ・年度毎で事業の評価を行い、次年度の新規事業を検討します。 	
	令和6年度		
	令和7年度		
	令和8年度		
令和9年度			

資料編



にかほ市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(目的)

第 1 条 社会福祉法（昭和 26 年法律第 45 号）第 109 条に規定する地域福祉を推進するため地域福祉活動計画を策定することを目的として、にかほ市地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、地域福祉活動計画の策定に関する事項を協議するものとする。

2 委員会は、地域福祉活動計画とにかほ市が策定するにかほ市地域福祉計画とが一体的に実施できるよう協議するものとする。

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 12 名以内の委員をもって構成する。

2 委員は、次に掲げるもののうちからにかほ市社会福祉協議会（以下「本会」という。）会長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 地域住民代表
- (3) 医療、福祉又は保健に係る法人その他団体に所属する者
- (4) その他本会会長が特に必要と認める者

(任期)

第 4 条 委員の任期は、第 2 条に規定する所掌事項が完了するまでとする。

2 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(報酬)

第 5 条 委員会の委員の報酬は、本会の役員等の報酬に関する規程第 4 条第 4 項によるものとする。

(委員長及び副委員長)

第 6 条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第8条 委員会は、必要があるときは、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聞き、又は委員以外の者から資料の提出を求めることができる。

(秘密の保持)

第9条 委員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は本会の地域福祉課において処理する。

(その他)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成29年8月30日から施行する。

第 4 期にかほ市地域福祉活動計画の策定経過

開催月日	内 容	備 考
令和 4 年 9 月 26 日	第 1 回 第 4 期にかほ市地域福祉活動 計画策定委員会の開催 ・委嘱状交付 ・自己紹介 ・正副委員長の選任について ・地域福祉活動計画について ・その他	場所：にかほ市社会 福祉協議会 仁賀保支所 出席：委員 6 名 参与 4 名 事務局 3 名
11 月 10 日	第 2 回 第 4 期にかほ市地域福祉活動 計画策定委員会の開催 ・地域福祉活動計画第 1 章から第 3 章について ・意見交換 ・その他	場所：にかほ市社会 福祉協議会 仁賀保支所 出席：委員 8 名 参与 2 名 事務局 4 名
12 月 20 日	第 3 回 第 4 期にかほ市地域福祉活動 計画策定委員会の開催 ・地域福祉活動計画第 1 章から第 3 章に係る訂正と補足説明について ・地域福祉活動計画第 4 章（案）に ついて ・計画書の配布先について	場所：にかほ市社会 福祉協議会 仁賀保支所 出席：委員 7 名 参与 4 名 事務局 2 名
令和 5 年 2 月 10 日	第 4 回 第 4 期にかほ市地域福祉活動 計画策定委員会の開催 ・地域福祉活動計画第 3 章の一部訂 正について ・地域福祉活動計画第 4 章（訂正案） について ・その他	場所：にかほ市社会 福祉協議会 仁賀保支所 出席：委員 8 名 参与 4 名 事務局 3 名

第4期にかほ市地域福祉活動計画策定委員会名簿

(敬称略)

No.	役職名	選出区分	氏名	備考
1	委員長	学識経験者	三島 清	社協副会長
2	副委員長	社会福祉協議会	佐々木由佳子	社協理事・地域福祉部会部長
3	委員	地域代表	村上 和美	赤十字奉仕団委員長
4	委員	地域代表	木内 利雄	元行政職員
5	委員	民生児童委員	須田 徹	前民生児童委員協議会会長
6	委員	福祉団体等関係機関	今野 真司	老人福祉施設長
7	委員	福祉団体等関係機関	佐々木久美子	福祉団体長
8	委員	ボランティア団体	高階 峯生	老人クラブ連合会長
9	委員	社会福祉協議会	佐藤 勝彦	前社協理事・在宅福祉部会部長
10	参与	市役所担当課	佐々木美佳	市福祉事務所福祉課長
11	参与	市役所担当課	齋藤 恵美	市福祉事務所長寿支援課長 兼 地域包括支援センター長
12	参与	市役所担当課	齋藤 和也	市福祉事務所子育て支援課長
13	参与	市役所担当課	齋藤 晴美	市健康推進課長



第4期 にかほ市地域福祉活動計画

令和5年3月発行

【編集・発行】

社会福祉法人 にかほ市社会福祉協議会

住 所 / 〒018-0402
秋田県にかほ市平沢字鳥ノ子淵 47 番地の 1
TEL / 0184-32-3020
FAX / 0184-37-2852
URL / <http://nikaho-shakyo.jp>